

わたしたちのまち
わたしたちの学校

ほんしゅく みなみ



横浜市立本牧南小学校



校 旗



校 舎 全 景

私たちのまちの

私たちの住んでいる町がどんな町か調

- | | | | |
|---|----|---|----|
|  | 公園 | 文 | 学校 |
|  | 交番 |  | 工場 |
|  | 神社 |  | 寺 |



鳥かん図

べてみましょう

⊗ 警察署

〒 郵便局

++ 貨物線路



も く じ

校舎全景

私たちのまちの鳥かん図

はじめに

- 1 学校のれきし 1
- 2 わたしたちのまちの見どころ 13~14
- 3 まちのうつりかわり 15
 - (1) 「本牧」という名 15
 - (2) 本牧海岸ひとむかし 17
 - (3) 漁業のまちだった本牧 19
 - (4) 本牧海岸のうめ立て 22
 - (5) 本牧の発てん 24
- 4 まちの商店街 28
- 5 まちの生産活動 34
 - (1) 漁業 34
 - (2) 港を利用した工場 38
 - (3) 貿易 40
- 6 学校の近くの公共施設 51
- 7 まちの伝統行事—お馬流し 64

あとがき



は じ め に

学校長 太田 清実

わたしたちの学校は、昭和46年4月1日、間門小学校本牧分校として開かれ、同じ年の9月1日に間門小学校より独立し、本牧南小学校として誕生しました。今年で満20才の誕生日をむかえます。それを記念して、創立20周年のお祝いの行事を計画しました。

この「ほんもくみなみ」もそのひとつとして発行したものです。

本牧南小学校のある土地は、校歌に歌われているとおり、昔海があり、白い鷗がとんでいたところでした。そこにこんな立派な学校が建てられました。

それから20年がたち、人でいえば成人式を迎えたことになります。

とてもたくましく働きざかりの青年になったわけです。このように立派になるまでには、多くの方々の苦労や協力があったことをわすれてはいけません。



この資料集はみなさんの地域や学校をよく知るために、また、社会科の資料として日頃の学習にも十分活用してほしいと思います。

おわりにこの資料集を作るにあたり、お話を聞かせてくださった方々、資料を提供してくださった地域の方々に、心より感謝申し上げます。

平成3年6月19日



1 学校のれきし

年月日	おもなことから
昭和 46・4・1	<p>○横浜市立間門小学校本牧元町分校として開設された。 横浜市中区本牧元町58の36に鉄筋4階建の校舎が新築された。</p> <p>○教室数－18 ○敷地－13000㎡ ○児童数－499名（1年～5年） ○学級数－14 ○職員数－24名 ○学区－本牧元町・錦町・豊浦町・本牧埠頭・かもめ町</p> <p>5・1 ○学校の水道が飲料水として使えるようになった。 （それまでは、水筒をもって登校した。）</p> <p>5・12 ○はじめての遠足を行った。</p> <p>5・17 ○給食開始（それまでは、弁当持参）</p> <p>5・19 ○テレビ視聴が可能となる。</p> <p>6・13 ○校庭の土盛り工事が開始された。（体育は教室で行う）</p> <p>6・19 ○分校開設祝賀式典を行い、この日を開校記念日とする。</p> <p>6・24 ○学芸発表会を行い、父母が多数参観した。</p> <p>7・2 ○校名が「本牧南小学校」に決定された。 （本牧元町小学校・錦小学校・三溪小学校の声があったが、本牧の南部に位置しているの で、南を入れて決定した。）</p>
	
<p>開校直後の校舎</p>	<p>第1期校舎建設</p>

年月日	おもなことから
46・7・5 7・9	<p>○本牧市民プールにて、水泳指導を始めた。</p> <p>○第一回PTA独立準備委員会を開いた。</p> <p>○真壁虎次校長先生が分校時代の校長先生でした。</p>
9・1 9・16 9・22 10・3 10・21 10・27 11・2 47・1・20 2・16	<p>○独立開校式典を行う</p> <p>○初代校長として、安岡富士男先生着任。</p> <p>○第一回PTA総会を開く。(初代会長一高野尚氏)</p> <p>○通学用として八王子橋が完成。渡り初め式をした。</p> <p>○第一回秋の運動会を盛大に行った。</p> <p>○秋の遠足を全校で実施した。(根岸森林公園)</p> <p>○横浜市児童体育大会で、スポーツ旗を受け取った。</p> <p>○航空写真を撮影した。</p> <p>○校庭に植樹を行った。(桜・梅・椿)</p> <p>○校章最終選考会が開かれ、校章が決まった。</p>
3・25	<div data-bbox="299 871 504 1078" data-label="Image"> </div> <p>校章を一般募集し、二百程集った中から木村宗吉氏の考案された校章に決まった。</p> <p>外周の八角形は、八聖殿に安置されている八聖人を表し六つの波型は、かつての八王子海岸の波を、また子供達の学びの庭を願って決められた。</p> <p>○第一回修了式を行った。</p>
5・10 6・17 6・19 6・19 7・21 8・29 10・13 11・28 48・1・9	<p>○外柵フェンス工事が完了した。</p> <p>○開校を祝うスポーツ大会を開いた。</p> <p>○第一回開校記念日を祝った。</p> <p>○日光修学旅行にはじめて参加した。(6年生)</p> <p>○箱根夏季学校にはじめて参加した。(5年生)</p> <p>○プレハブ校舎が完成した。(集会や雨天体操場)</p> <p>○横浜市児童体育大会にはじめて参加した。(6年生)</p> <p>○交通指導員(緑のおばさん)が着任した。</p> <p>○第一回書写展を開催した。</p>

年月日

おもなことがら

- 48・3・12 ○校歌制定式・校舎増築落成式を行った。
(音楽室・理科室・普通教室・などが増設された。)
- 3・20 ○校舎正門が完成した。
- 3・22 ○第一回卒業証書授与式を挙行政した。
(職員室にて行った)
- 7・23 ○夏季学校の目的地を富士五湖に変更した。(5年生)
- 49・2・26 ○横浜市児童音楽会に代表が参加した。
- 11・1 ○業間体育でなわとび、ダンス、マラソンを始めた。
- 50・2・5 ○校舎裏地 1565 m²が本校用地として拡張された。
(全体で 14565 m²となった。)

本牧南小学校校歌

作詞 星野 哲郎
作曲 鍋木 創

明るく ♩ = 58

ここにはむかしうみがありし
ろいかもめがとんでいた
まそのうみはわたしらの
ころにあおくよみがえりき
ぼうをのせたふねがでるほ
んもくみなみしやがっこう

二、
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校

二、
自然のままに
正しいものを
やさしい父や
ねがいをこめた
ひかりはあふれ
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校

一、
ここには昔海があり
白い鷗がとんでいた
いまその海はわたしらの
心に青くよみがえり
希望をのせた船がでる
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校

二、
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校

二、
そびえてのこる
みどりの影の
かわらぬ努力
明日への旅に
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校



一、
老松の
そのように
つみかさね
そなえよう
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校
本牧南小学校

校歌について

作曲者 星野哲郎氏
作曲者 鍋木 創氏

星野氏は、歌詞を書くのに当って、何回もこの地を訪れ、学校の屋上に上がって周りの景色を見たり、土地の人々の話を聞いて回られました。また、鍋木氏は、他の校歌にないようなクラシックと歌謡曲の中間の感じの6/8拍子の曲を作られました。

校歌の発表会当日は、雨にもかかわらず、PTAなど関係者も多数参加され、県警ブラスバンドが校庭をパレードし、校歌の誕生を祝いました。

年月日	おもなことから	
50・9・6	<p>○校旗が制定された。</p> 	<p>校旗の考案者は、初代校長安岡富士男氏</p> <p>たて—65cm 横—1m</p> <p>周囲を金色の房で囲み、中央に校章を浮き出しています。地は濃紺で、八角は銀色、八角に囲まれた地が水色、校名が金糸で縫いとられています。</p>
9・6	○新校舎落成式典を行う。(講堂・家庭家室・普通教室)	
	○横浜市教育内容方法開発協力校として、研究発表会があり、学級会、学級指導、道徳の授業公開をした。	
12・2	○優良PTAとして表彰された。	
51・2・6	○研究発表会(算数)があり、授業公開・研究発表を行った。	
3・31	○初代校長安岡富士男先生が退職された。	
51・4・1	○二代校長として、輿石桂先生が着任された。	
6・18	○創立五周年を祝い、スポーツ大会を開催した。	
7・7	○第一回 七夕集会	
	を開いた。	
11・19	○健康をたたえる会に参加した。	
11・30	○TVKテレビ教育の時間で本校の算数授業の様子が放映された。	
52・8・2	○鉄棒の移設工事がされた。	
9・13	○非常用放送機械が取り付けられた。	
53・2・14	○校庭に自作遊具を製作し、取り付けられた。	
2・22	○体育館に助木が取り付けられた。	
3・1	○校舎東側(産業道路面)に防音壁が完成した。	
3・15	○スプリンクラーが設置された。	
		
		七夕集会の様子

年月日	おもなことがら
53・4・20 8・16 8・18 8・ 11・25 12・25	○敷地内にモクセイが植込まれた。 ○テレビアンテナが新しくなった。 ○校舎西階段に手すりが取付けられた。 ○非常階段の塗装工事がなされた。 ○中区研究会で授業公開を行った。(音楽・体育) ○校庭に先生方の製作による自作遊具が設置された。
	
54・7・30 8・31 10・ 11・26 11・30 55・1・30 3・7 3・13	○東側3教室(産業道路側)の防音工事及び空調設備が取り付けられた。 ○給食配膳室及び調理室の拡張・改修工事が着工された。 ○学校西側の下水道の暗きょ化が完成し、学年や学級の花だんや砂場ができた。 ○ポンプ室の改修工事がされた。 ○火遊びをしない子の集いに参加した。(3年)(横浜スタジアム) ○市小学校児童音楽会に参加した。(5年) ○外柵金網の補修工事がされた。 ○校舎東側の防音壁延長工事が着工された。
	 4・21 ○神奈川県より教育放送研究推進校の委嘱を受け、55・56年度にわたり研究を続けた。 55・9・3 ○二代目校長興石桂先生が転任された。 9・4 ○三代目校長長島巨先生が着任された。 11・ ○放送スタジオの拡張・改装工事が完了した。 11・20 ○関東甲信越放送教育研究大会発表会があり、テレビ放送を利用しての授業公開(社会・理科・道徳)と校内放送の研究結果の発表を行った。

年月日	おもなことから
56・ 3・31	○校舎前の苑池造り工事が完了した。
4・10	○横浜市より教育課程実践研究協力校（視聴覚教育）を引き受け、研究をした。給食室の増改築が完了した。
5・13	○石油保管庫・ポリ容器置場工事が完了した。
5・13	○印刷室の新設工事が完了した。
6・17	○創立記念スポーツ大会を開いた。
6・18	○創立十周年記念式典を行った。
7・27	○4階Pタイル張替え工事が行われた。

— 十周年記念式典 —



10周年記念品目録贈呈



校長先生挨拶



校歌斉唱



祝典歌演奏








PTA コーラス

年月日	おもなことがら
57・3・29	○給食室の回転釜取付け工事が行われた。
57・9・1 9・1 11・27 12・16 58・1・11	○第三代長島巨校長転任 ○第四代高辻芳昭校長着任 ○土曜授業参観作品展同時に開かれた。 ○個人懇談会 ○校内書写展
	
	取付けられた回転釜
4・5 5・9 6・18	○入学式 ○全校遠足 ○創立記念を祝うスポーツ大会。
	
7・7 9・3 10・2 10・27 11・26 59・1・12 3・19	○七夕集会 ○プール納め ○秋季運動会 ○遠足（1～5年） ○土曜授業参観・作品展 ○書写展 ○卒業式
	
	全校遠足
4・5 4・27 7・7 7・24 9・6 9・30	○入学式 ○全校遠足（森林公園） ○七夕集会 ○夏季林間学校 ○プール納め ○秋季運動会

年月日	おもなことから			
59・11・17	○第一回本牧祭			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>プログラム</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>開祭式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめのことば 2. みんなで歌おう 3. お祭広場の説明と約束 4. お祭バンザイ <p>一鼓笛パレード</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>閉祭式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表彰式 2. 校長先生のお話 3. おわりのことば </td> </tr> </table> </div>			<p>開祭式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめのことば 2. みんなで歌おう 3. お祭広場の説明と約束 4. お祭バンザイ <p>一鼓笛パレード</p>	<p>閉祭式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表彰式 2. 校長先生のお話 3. おわりのことば
<p>開祭式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめのことば 2. みんなで歌おう 3. お祭広場の説明と約束 4. お祭バンザイ <p>一鼓笛パレード</p>	<p>閉祭式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表彰式 2. 校長先生のお話 3. おわりのことば 			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ゲームコーナー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>手作りのおみこし</p> </div> </div>				
<p>60・1・11</p> <p>2・23</p> <p>3・20</p>	<p>○書き初め展</p> <p>○校内なわとび大会</p> <p>○卒業式</p>			
<p>4・5</p> <p>6・12</p> <p>6・16</p> <p>7・5</p> <p>7・21</p> <p>9・29</p> <p>10・26</p> <p>11・27</p> <p>61・1・25</p> <p>2・24</p> <p>3・19</p>	<p>○入学式</p> <p>○創立記念日を祝う活動</p> <p>○日曜授業参観</p> <p>○七夕音楽会</p> <p>○箱根夏季林間学校</p> <p>○秋季運動会</p> <p>○本牧祭（第2回）</p> <p>○図工室完成</p> <p>○感謝活動集会</p> <p>○校内なわとび大会</p> <p>○正門横の錨除幕式</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		

年月日	おもなことがら																			
3・20	○卒業式																			
4・5	○入学式																			
5・2	○こいのぼり運動会																			
5・9	○全校遠足																			
6・15	○日曜授業参観（706名出席）																			
7・21	○校舎内外の塗装工事始まる																			
7・24	○箱根夏季学校……神山登山をした																			
9・2	○校内草取り活動																			
9・28	○秋季運動会																			
	 <p data-bbox="322 898 528 937">赤かて！白かて！</p>	 <p data-bbox="843 927 1035 966">学校をきれいに</p>																		
10・8	○創立15周年航空写真撮影																			
11・8	○本牧祭（全校たてわりで行った。）																			
	<p data-bbox="363 1033 555 1062">「本牧祭り音頭」の踊り方</p>  <p data-bbox="500 1246 802 1284">小宮前副校長先生作詞・作曲</p>	<table border="1" data-bbox="843 1014 1159 1284"> <thead> <tr> <th colspan="2">時 程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8:30～9:00</td> <td>準備</td> </tr> <tr> <td>9:00～9:10</td> <td>開祭式</td> </tr> <tr> <td>9:10～9:30</td> <td>みこし発表</td> </tr> <tr> <td>9:30～9:55</td> <td>店、ゲーム館</td> </tr> <tr> <td>10:05～10:30</td> <td>〃 〃 (後)</td> </tr> <tr> <td>10:40～11:40</td> <td>消防局音楽隊 演奏</td> </tr> <tr> <td>11:40～11:50</td> <td>閉祭式</td> </tr> <tr> <td>11:50～12:10</td> <td>後片付け</td> </tr> </tbody> </table>	時 程		8:30～9:00	準備	9:00～9:10	開祭式	9:10～9:30	みこし発表	9:30～9:55	店、ゲーム館	10:05～10:30	〃 〃 (後)	10:40～11:40	消防局音楽隊 演奏	11:40～11:50	閉祭式	11:50～12:10	後片付け
時 程																				
8:30～9:00	準備																			
9:00～9:10	開祭式																			
9:10～9:30	みこし発表																			
9:30～9:55	店、ゲーム館																			
10:05～10:30	〃 〃 (後)																			
10:40～11:40	消防局音楽隊 演奏																			
11:40～11:50	閉祭式																			
11:50～12:10	後片付け																			
62・1・12	○書き初め展																			
1・21	○感謝活動週間																			
3・20	○卒業式																			
3・31	○第4代高辻校長先生御退職																			
4・1	○第5代宝珠山正男校長先生御着任																			
4・6	○入学式																			
5・2	○こいのぼり運動会																			
5・8	○全校遠足																			
6・14	○日曜授業参観																			
6・17	○校地周辺の清掃																			
																				

年月日	おもなことがら												
62・ 8・31 9・27 10・ 11・7 63・ 3・19	<div data-bbox="713 202 1159 463" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><u>みんなで名前をつけました</u></p> <p>6年生からの「学校の中にある遊び道具や場所」に名前をつけよう」という提案が通り、次のような所が全校投票の結果名前がつけました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●池・・・竜神池 ●藤だな前・南ベンチ ●藤だな園・・・エメラルドの藤だな ●校舎前の通り・・・南通り ●チエーンネットクライム・・・ジャングル ●砂場・・・すなの国 チエーン ●タイヤと丸太・・・アスレチックワールド ●盛り廊下・・・ひみつの通路 </div> <p style="text-align: center;">学校だよりより</p>												
4・ 5 7・ 1 11・ 5	<div data-bbox="164 695 336 792" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="343 695 782 966" style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">1年児童</p> <p>土よう日のほんもくまつりでしゃげきをやりました。がいこつおめんもかいました。とてもおもしろいおめんです。そのおめんをかぶるとみたいです。</p> </div> <div data-bbox="809 569 1200 917" style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">お母さんの声</p> <p>各教室を使って、ゲームコーナー、お店屋さんと、みんな工夫をして良く出来ていました。6年生が1年生の面倒をみながら各教室を見て回っているのが印象的でした。みんながんばってステキな本牧祭りでした。</p> </div>												
平成 1・ 2 2・17 3・ 3 3・24 3・20	<p>○たこあげ大会（児童代表委員会による）</p> <p>○学校保健功労者として宝珠山正男校長先生が教育長より表彰を受けた。</p> <p>○本校PTA、校外補導委員会が、児童の交通安全の推委に多大な貢献をされたということで、教育長より表彰された。</p> <p>○クラブ発表会</p> <div data-bbox="418 1207 1035 1497" style="border: 1px dashed gray; padding: 10px; text-align: center;"> <p>こんなクラブがありました</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>科学……………29名</td> <td>卓球……………25名</td> </tr> <tr> <td>手芸・料理……………43名</td> <td>サッカー……………25名</td> </tr> <tr> <td>図画・工作……………21名</td> <td>バスケット……………41名</td> </tr> <tr> <td>器楽・合唱……………23名</td> <td>器械・陸上……………35名</td> </tr> <tr> <td>ビデオ……………29名</td> <td>バトミントン……………45名</td> </tr> <tr> <td>将棋……………23名</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>○横浜博覧会開会式ー5年生が出場した。「ブループラネット」を合唱しました。</p> <p>○卒業式</p>	科学……………29名	卓球……………25名	手芸・料理……………43名	サッカー……………25名	図画・工作……………21名	バスケット……………41名	器楽・合唱……………23名	器械・陸上……………35名	ビデオ……………29名	バトミントン……………45名	将棋……………23名	
科学……………29名	卓球……………25名												
手芸・料理……………43名	サッカー……………25名												
図画・工作……………21名	バスケット……………41名												
器楽・合唱……………23名	器械・陸上……………35名												
ビデオ……………29名	バトミントン……………45名												
将棋……………23名													
4・ 5 5・ 2	<p>○入学式</p> <p>○さわやか運動会</p>												

年月日	おもなことから	
平成 1・4 1・6・5 6・17 10・1 10・25 11・7 2・2・15 2・20 3・20 3・31	○視聴覚室・理科室工事完了。 ○横浜博見学 全校がバスに分乗して行き、学年毎にいろいろなパビリオンを見て、楽しい一日をすごした。 ○土曜授業参観 ○運動会 ○中区音楽会（3年） ○観劇会「笛ふきパパゲーノ」 ○本校が学校保健優良校になる。 ○学校安全教育の市協力校として研究発表会をする。118名の先生方が来校。 ○卒業式 ○第5代宝珠山正男校長先生御退職	 <p style="text-align: center;">視聴覚室</p> 
4・1 4・5 5・28 6・16 7・4 7・27 8・24 10・11 10・28 11・5	○第6代太田清実校長先生御着任 ○入学式 ○春の遠足 ○土曜授業参観 ○創立記念日を祝う週間 ○しおかぜ音楽会 ○箱根夏季学校（5年） ○市水泳大会 良い成績をおさめました。 ○航空写真撮影 ○20周年記念バザー ・ゲーム ・お店などでにぎわいました。 ○観劇会 ・どんぐりと山ねこ ・セロひきのゴージュを見た。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 水泳クラブに参加して </div> <p>3年児童 けのびやバタ足で9メートル泳いでAグループに入りました。次の検定はめんかぶりクロールで、13メートル泳げました。Bグループに入れた。 「やったね。」 とうれしくなった。</p>  

年月日

おもなことがら

- 3・1・17 ○書き初め展
- 1・25 ○感謝集会
- 2・18 ○なわとび大会
- 2・27 ○ふれあい活動
- 2・28 ○たてわり給食



1年～6年をたてわりにして、給食の時間をすごした。思い出深い日になった。

- 3・11 ○卒業生を祝う週間
- 3・20 ○卒業式



第19回卒業式



学校の全景（平成3・2・）



飼育小屋



正門の錨



特殊教室

わたしたちの

- ★ 三溪園などの自
公園施設に加え、
・ベイブリッジと
が人々の関心を集
- ★ 産業道路や首都
ました。平成元年
ランプやベイブリ
短時間で行けるよ



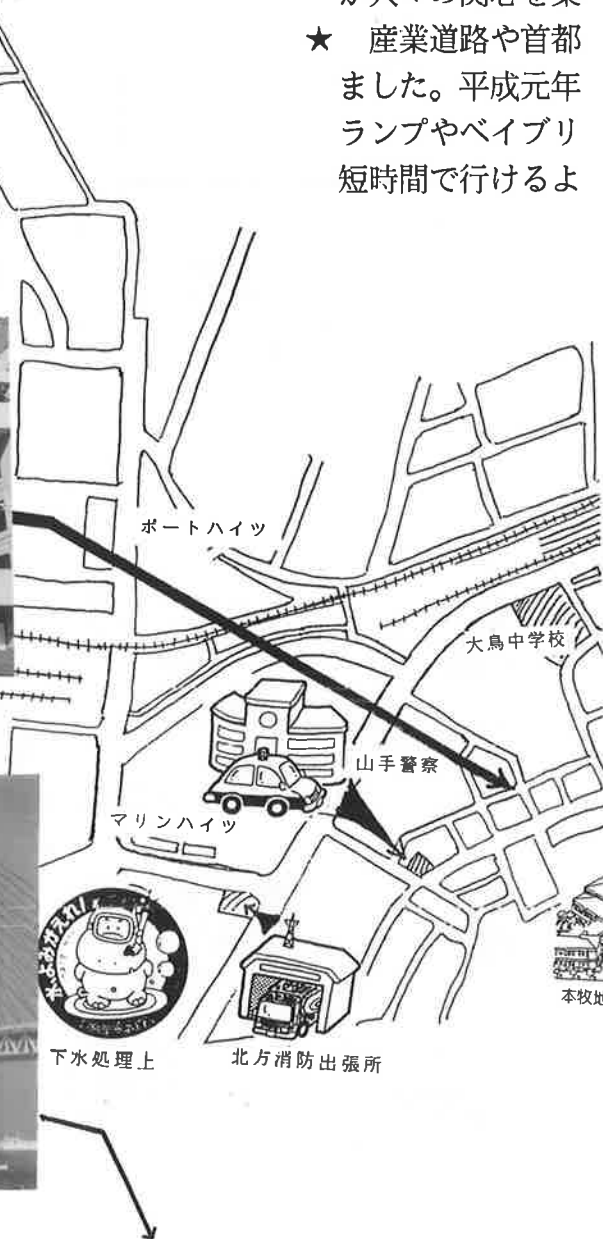
横浜港シンボルタワー



マイカル本牧



ベイブリッジ



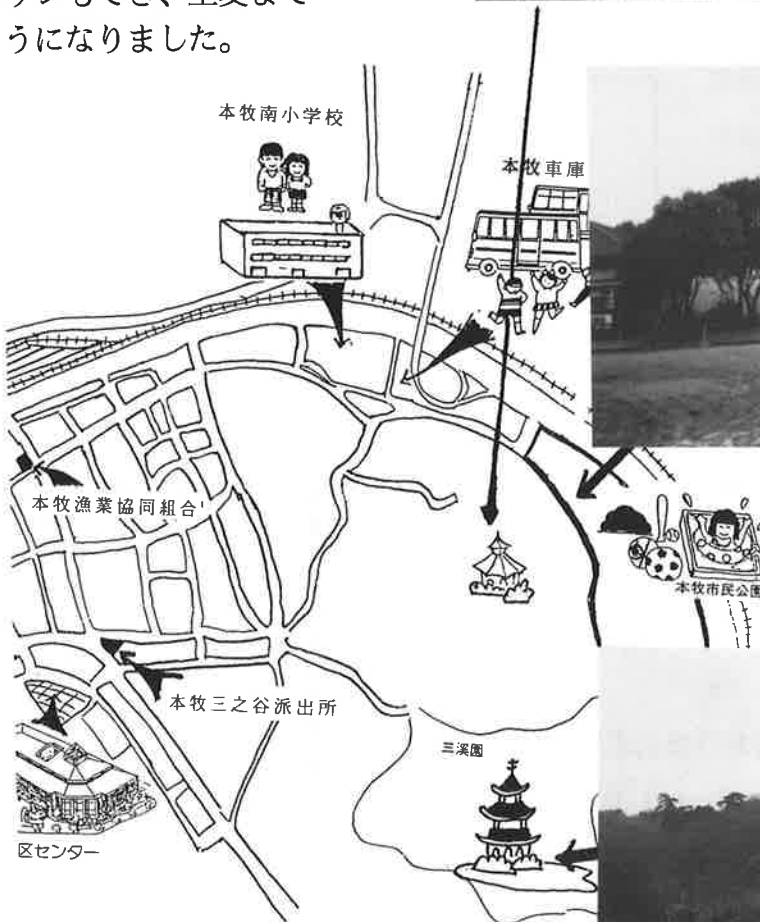
まちの見どころ

然の美しさを生かした
最近ではマイカル本牧
いった近代的な建造物
めています。

高速道路の開発も進み
9月27日には本牧ふ頭
ッジもでき、生麦まで
うになりました。



八
聖
殿



本牧市民公園



三 溪 園

3 まちのうつりかわり

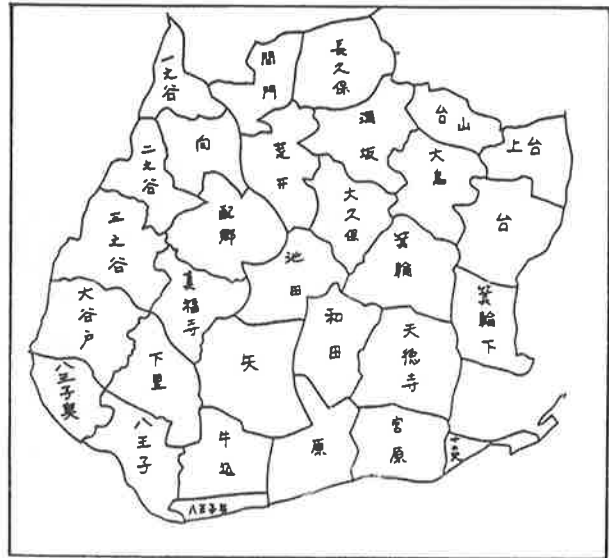
(1)「本牧」という名

「本牧」という名の歴史をはじめにひもといてみましょう。

本牧一帯は鎌倉時代「平子郷」といっていました。そして戦国時代に入って「本牧郷」に名がかわりました。この時代の本牧は海りく交通の中心地「湊」としての役わりになっていました。

その後は「本牧本郷村」とよばれ。ペリー来こう後は横浜開港にそなえてばくふのちょっかち地となり「外国ぶぎょうりょう地」となりました。

そして、明治11年「横浜区」が誕生すると、「久良岐郡本牧村大字本牧本郷字牛込」と呼ばれるようになりました。当時、本牧には一之谷、向、二之谷、配郷、三之谷、真福寺、大谷戸、下里、八王子奥、八王子、牛込原、宮原、十二天、天徳寺、和田、矢箕輪下、箕輪、池田、大久保台、大鳥、湊武坂、荒井、間門、上台、台山、長久保の29の字名ありました。



本牧の29の小字

明治34年、本牧は横浜市に編入され、ついに「本牧町」が誕生したのです。この頃、路面電車の本牧えん長が行われたことや、港やいりゅう地も近いこともあって、人口は江戸時代の終りの3倍近くになりました。

そして、昭和8年、今までの字名がはいしされ、新しい町名がうまれました。現在の本牧元町は当時の字牛込、八王子、王子奥のことで、このあたりが昔の本牧本郷村の元であったため「元町」と命名されたのです。

昭和20年の敗戦で本牧の町の多くがせっしゅうされ、以後40年間、治外^{ちがい}法権^{ほうけん}（日本の国にいても日本の国のとうちけんの^{しはい}支配を受けない）地域が

町のまん中にそんざいし
続けたことはみなさんも
覚えていることでは
しょう。今、マイカル本牧と
よばれているところ
ですね。こうだいな土地に緑
のしばふとアメリカ人が



マイカル

住む家々が点々と建っていた風景は今となってはなつかしい感があります。



マリソウ

昭和40年代になると、
本牧みさきのまわりの海
面はうめ立てが急ピッチ
で進められ、むかしの海
岸線はすべてなくなって
しまいました。うめ立て
地には日本石油、日産自

動車、三びし重工などの大きな工場がたちならび本牧埠頭^{ふとう}もつくられました。この土地は、千鳥町、豊浦町、錦町、本牧埠頭^{ふとう}、かもめ町と海にちなんだ名前をもつ町として次々と誕生したのです。ポートソウ、マリソウに住むみなさんは新しくできた地に住んでいるわけです。



本牧埠頭

(2) 本牧海岸ひとむかし



(海より八王子山をのぞむ・落合昭一氏蔵)

今、本牧^{しほ}車庫^こから見上げるとがけにそってマンションが建っていますが、ここは、昔、八王子山といわれた所です。この八王子を含む十二天^{はな}の鼻^{はな}から三之谷、二之谷、間門にかけてひろがる台地を本

牧^{みさき}岬とよんでいました。

船が東京わん内にはいってきて、一番先に目にはいる陸地は、白砂、青松の本牧岬であるといわれ、「金屏風白州の荘」とたたえられるほど、昔からふうこうめいびな所だったということです。

ところで、本牧南小学校の校歌にも歌われている八王子がけの上の老松には次のような言いつたえがあります。

本牧岬はいわゆる三角波のたつところで昔から海のじこが多く、漁しさんたちはたいへんこまっていました。あるとき、紀州^{きしゅう}（今の和歌山県）からめぐってきた^{ぎょうじゃ}行者は山の上の大松をもとにして三角形のほこら（神さまを祭る小さなやしる）をつく



(かつての八王子海岸・天野洋一氏蔵)

り、祭りをおこなうようにと伝えました。そこで村人たちはその三角点に、三王^{ごんげん}権現・八王子権現、あたご権現をつくり、ほこらと石を置いてお祭りを行ったところ、海のじこはその後おこらなくなったので、大松は村人みんなから、うやまわれだいにされたということです。



(埋め立て前の漁・落合昭一氏蔵)

それからずっとがけ下のへんかを見まもってきたこの老松が昭和52年の台風によってたおれてしまったことは、まことにざんねんです。

また、本牧鼻のあたりはペリーの黒船^{ふね}がやってくること(1853年)にそなえて海岸線に十カ所の砲台^{ほうだい}(たいほうや人を守り、たいほうをうちやすいようにきづいた所)がきづかれ、2500人ももの武士があつまり、江戸湾を守るための地となりました。ペリーは開国の交渉^{こうしょう}を横浜村(今の関内あたり)で行っている間、沿岸^{えんがん}のくわしい地図を作りました。この地図によると、根岸湾のことを「ミシシッピー・ベイ(がけ)」、十二天のがけを「マングリン・グラフ(みんな色のがけ)」、八王子山のがけを「条約地点^{じょうやく}」とよび、大切なめじるしにしていたということです。

1854年3月、ついに江戸^{にちべい}ばくふは日米和新条約(神奈川条約)をむすび、長いこと国をとざしていたのをやめ、いろいろな国とおつきあいをする(開国)にふみきました。270年ちかくつづいた鎖国^{きこく}(外国とのつきあいをしない)がおわったのです。その後、現在の「八聖殿」のあたりには、「遠見番所^{とうみばんじょ}」という江戸湾および横浜湾にはいってくる外国の船をみはるたものもたてられたということです。

(3) 漁業のまちだった本牧

うめたて前の本牧は、東につき出た半島をとりまく、ぜっこうな海岸線をもった、めぐまれた地形でしたので、いろいろな漁業が市内でもっともさかんでした。

海岸は北から、宮原、原、牛込、八王子、三之谷、二之谷、一之谷、間門と遠浅の砂浜がつづき、アサリ、バイガイ、ハマグリなどがとれ、のりのようしょく場としても冬はつかわれました。



(八王子海岸より本牧原をのぞむ・天野洋一氏蔵)

本牧海岸沖には大洲という、東京湾西岸を北に流れる海流によって作られた洲（土や砂が高くもりあがって、海の水面上にあらわれた所）があり、ここではカレイ、コチ、ネズ、キスのほか、バイガイが多くとれていたそうです。

また、打瀬網におけるカニの豊漁も現ざいにいたるまでかたりつがれています。打瀬網というのは、ほによってあみを海のそこにひく漁で、ほとんど海の底にいる魚をとるのにつかいます。シャコ、カニ、クルマエビな

どはこの漁法によってのみとることができます。貝捲漁法によるアサリも主な産物でした。

特に冬の季節をとくちょうづけるまでになったのりは最もさかんでした。ここで、そののりづくりについてお話ししましょう。



(貝の漁法・落合昭一氏蔵)

本牧ののりようしょくのはじまりは、明治の末のことでした。十二天海岸から八王子の浜辺にいたるたくさんの「のりひび」。のり取り船をあやつり、潮がひくころには海中につかりながらのりをとります。これがおよそ、30年前までの本牧海岸で12月から4月中旬までの間によくみられるよう景でした。



(のり干しの風景・落合昭一氏蔵)

○のりができるまでにはどのような手順があるのかしていますか。

まず、のりがつくように海にヒビをうえこみます。本牧のヒビ（地元ではノリシビという）は木ヒビで、杉田の奥の円海山のふもとにある氷取

沢、栗木、日野などから馬にひかせてはこんできました。ケヤキは枝がつかわれました。ケヤキは枝がスーツとしているので大へんこのまれたということです。その葉をおとすシビコキは7月に行われました。多くの地域では竹シビにかわりはじめているなかで、本牧ではのりの色がよくあがるという、戦争まえまでは木のシビを使っていたのだそうです。

9月も下旬になると、シビタテといって、ヒビのうえこみがはじまります。波にさからわないように岸がわにややたおして、海のそこにしっかりとつきたてます。シビタテの日はしん重にえられます。一日のちがいがその年ののり付きを左右し、アオサの多いのりになってしまうことがあるからです。

11月も末、さむさといっしょにのり取りがはじまります。ヒビについての新しいのりをかきとって、よくあらってから、のり切りぼうちょうできざんだあとに、水のはいったたるの中でかきまわします。それをよしずの上

で箱にいれ、一まい一まいすいていくのです。そしてよしずつと棚にほします。一日でほしあげないと、よいのりになりませんから、日の出ている時間を考え、このさぎょうはま夜中から始められ日の出ごろにすき終るようにしなければなりません。

一つの棚から取れる量が、一日、やく1000まい前後ということですが、こんな棚が全部で3750棚もあったときがあったそうです。



のりを干す風景

写真のように本牧の浜にのりを干す棚がたくさん並ぶ頃、本牧の町は一ぺんに活気づいてくるのです。そして、ドウゴシといわれる春一番の風がふく頃、のりのきせつは終りをつげるのです。

昭和10年代には最も品質のよいのりをつくるまでになりました。しかし、昭和30年代にはいると、のりづくりにもかげりが見えはじめました。東京湾の沿岸のうめたてが急ピッチですすめられたことと工場から出るはい水などによる海水のよごれがげんいんでした。又、横浜港に出入りする船からすてられるよごれた油のため、一地区ののりが全めつするというひ害もおこり、品質も悪くなりはじめました。

昭和37年(1962年)根岸湾本牧沖のうめたて工事により、漁業の町としての本牧のれきしは終りをつげました。京浜工業地帯けいひんこうぎょうちたいの発てん、それにともなう横浜港のかくちょう(広げること)や、都市開発としかいほうのえいさょうのあおりをうけたともいえますが、大都市のすぐとなりうんめいに位置する生産地としては、いつかそうなる運命うんめいだったのかもしれない。

(4) 本牧海岸のうめ立て

本牧南小学校の校歌や右の写真でもわかるように、ここはむかし海でした。

うめ立て前の本牧海岸は、漁業や観光地として有名で、外国人もたくさんやってきました。

しかし1961年(昭和36年)からうめ立てが始まり今までの海岸線はすっかりなくなってしまいました。

右下の写真は、そのうめ立て作業の様子です。

では、どのようにして、この広い土地をうめ立てたのでしょうか。

- ①うめ立てをするまわりをていぼうでかこみました。
- ②かこんだ内がわの水を外へすい出しました。
- ③ていぼうの外がわの海ていのすなを内がわに入れました。
- ④磯子区岡村周辺の山の土などをつみ上げていきました。

この新しいうめ立ての方法と一番新しい機械を使ったことによって、予定より早く1965年(昭和41年)に完成しました。



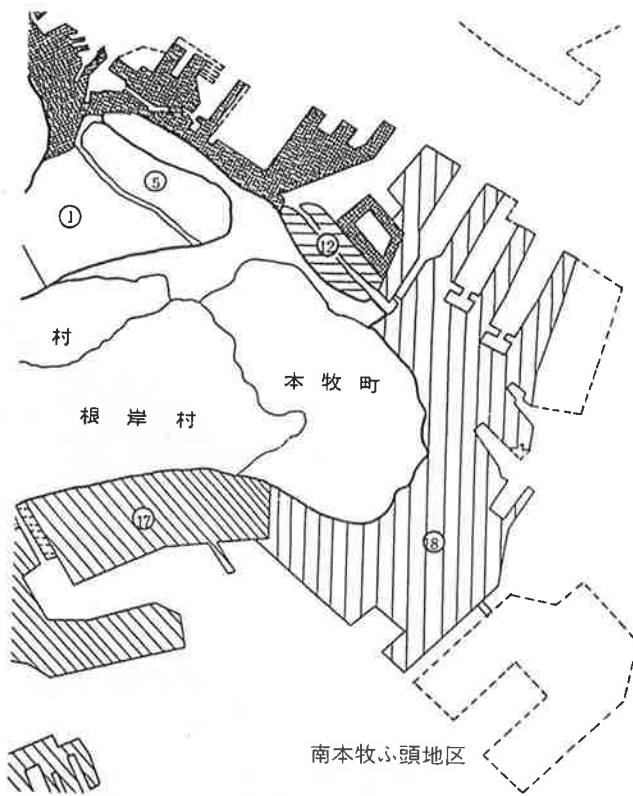
間門海岸の海水よくのようす



海ていのすなを内がわに入れているようす



土の積みあげのようす



左の図の⑱のたての線がついているところが、本牧海岸のうめ立て地です。かなり広いことがわかりますね。

下の写真は、学校が建つ前の様子です。まわりには、建物がほとんどなく、ただの草原です。本牧車庫の、上を通っている立体交差もよくみえますね。

この本牧のうめ立てから、25年がたち、まわり

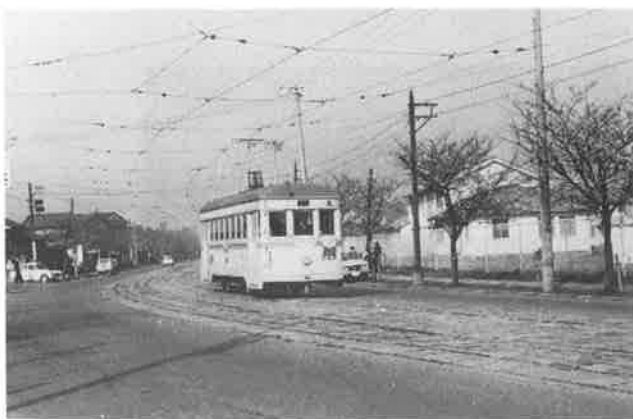
のけしきもずいぶんかわってきました。

また、新しいうめ立ても計画され、1990年7月から始まっています。これから、ますますかわっていく本牧を、わたしたちは、もっともっと大切にしなければなりません。



(5) 本牧の発てん

写真は今なつかしい市電のすがたです。明治44年(1911年)12月26日、本牧に市電(路面電車とも)がのりいれました。明治37年に、神奈川てい車場(今の青木橋)と大江橋(桜木町)の間に市電が走ってから7年目のことです。



(接收地の前を走る電車・天野洋一氏蔵)

どうしてこんなに本牧のちいきを走るのが遅れたかということ、今は麦田にトンネルが開通していますが、この山が障害になっていたためです。ですから、その頃は本牧から市の中心部の関内に行くには、山をこえていかなければいけませんでした。今の新山下町のバス通りもうめたてがすすまず、まだ、海の底だったのです。

明治43年11月に麦田町がわと元町がわからトンネルが同時にほられることになりました。ついに、開通しそれまで西の橋(元町)まできていた路線が本牧原までえん長されたのです。この路線開通は、本牧町を市中心部にむすびつけることになっただけでなく、本牧町の人口がふえることにもなりました。

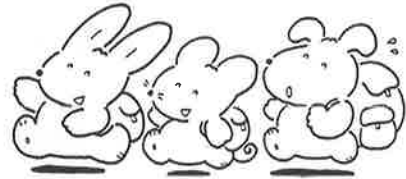
生糸で成功した原富太郎がつくったさんけい園(明治39年につくられた)をおとずれる人も、だんだんふえて、終点からさんけい園まで道の両がわには店が立ちならび、いっそうにぎやかになっきました。外国人のリゾート地だった十二天海岸へは、横浜中から市民が市電にのって海水浴や汐ひがりにやってくるようになりました。

こうして、60年あまり、市電はその後バスにとってかわられるまで、多くの人びとやものをはこびながら、沿線の町のうつりかわっていくすがた

を見守ってきたのです。



(本牧を走る市電・天野洋一氏蔵)



● それでは、電車のれきしを本牧の地にしばらくおってみましょう。

● 大正2年(1913)5月
北方天沼にあったキリンビール会社せん用のひきこみ線がひかれる。



昭和初期の間門終点
〔「ちんちん電車」より〕

● 大正10年(1921)4月
市電となる

● 大正11年(1922)6月
本牧原から間門までのえん長工事がはじまる。9月の関東大しんさいによって工事をとちゅうでやめる。

● 大正13年(1924)4月
市電間門線が開通した。

● 昭和20年(1945)5月
横浜大くうしゅうで、市電は、はめつ状たいになる。

● 昭和30年(1955)4月
市電根岸線(間門～八幡橋)が開通した。



● 昭和44年（1969）6月

八幡橋～間門～本牧三けい園の間の市電の運転をとりやめる。

● 昭和44年（1969）7月

本牧三けい園～～麦田～桜木町駅～高島町の間の市電の運転をとりやめる。

- 市電の歴史をざっとみてきましたが、その頃の様子もしょうかいしておきましょう。



関東大しん災で破かいされた市電のレール
（「ちんちん電車」より）

大正11年6月、本牧原から間門までの1584メートルの工事がはじめられ、その半分のレールがしかれたとき、9月1日に関東大しんさいが本牧の町をおそいました。

市電のレールはアメのように曲がり、鉄の柱はたおれ、電

線はたれさがるという大さんじになってしまったのです。

しかし、大正13年4月1日、市電間門線は開通したのです。

その頃の電車の道はそれまでの山にそったふるい道が曲がりくねっているのに対し、平地の真ん中にまっすぐ作られました。

電車は青田やはす田の畑をみおろしながら走ったそうです。電車通りには一けんの家もなく、両側の山は青々と木がしげり、十二天のあたりでは民家のむこうに海が見えたということです。

又、昭和30年に開通した市電根岸線（間門～八幡橋）は海岸線にそって走っていたため、高潮のひがいをうけて時々、走るのをやめることがありました。

また、この頃になると、道路は車がたくさん走るようになり、交通戦争

がはげしくなるにつれて、市電は大へんじゃまになってきました。市電の運転を中止しようという声も大きくなってきました。さらに、昭和39年、国電（今のJR）根岸線が走るようになって、市電の運転をとりやめる時期を早めてしまいました。

こうして、次々といろいろな線での運転が中止され、ついに本牧から長いこと市民の足として親しまれてきた、ちんちん電車（市電）が消えていってしまったのです。



（当時の本牧三の谷市電通り・天野洋一氏蔵）



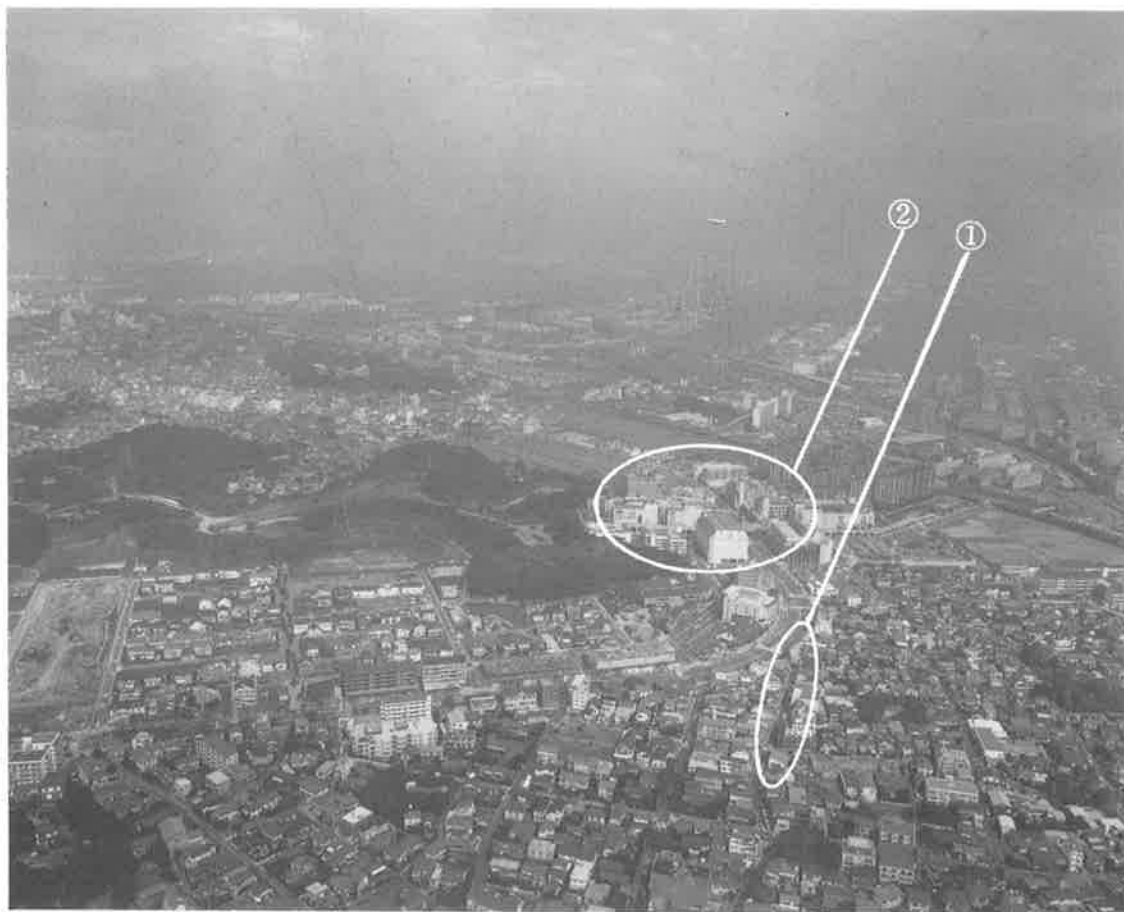
（駐留軍のハウスが建っていた頃の
三の谷市電通り・天野洋一氏蔵）

4 まちの商店街

(1) 商店街のようす



○お店が多く集まっているのは、どこでしょう。

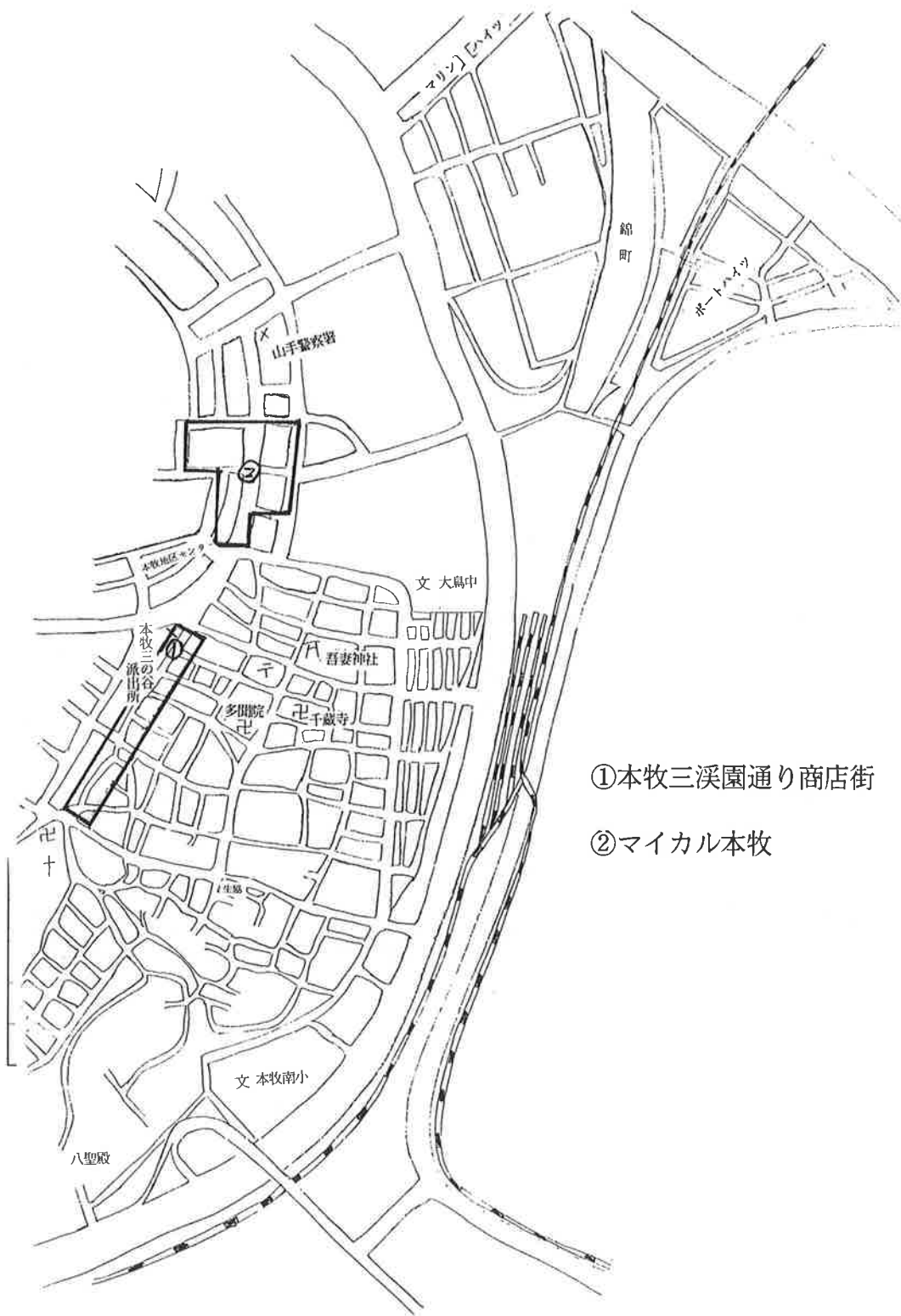


①本牧三溪園通り商店街 (三の谷商店街)

②マイカル本牧



○学区近くの商店街

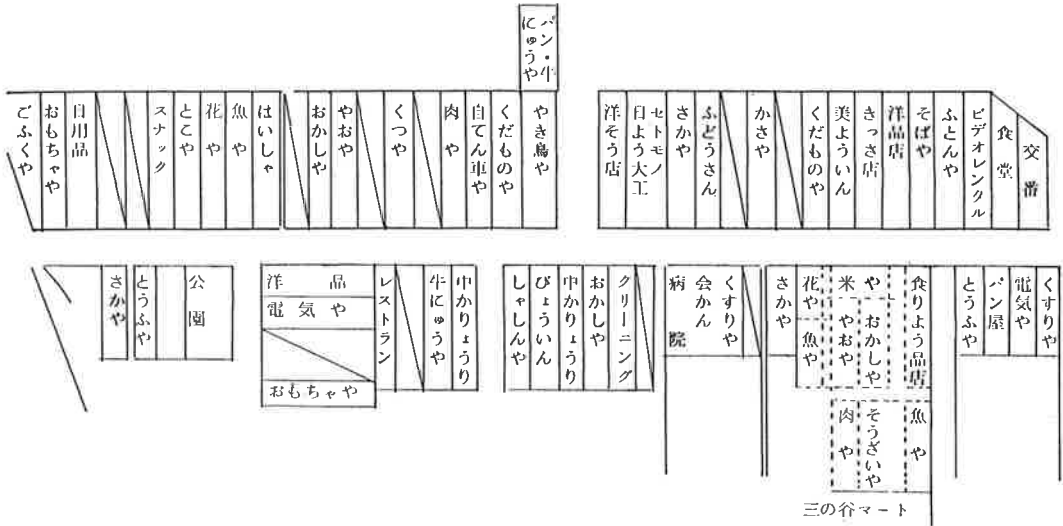


①本牧三溪園通り商店街

②マイカル本牧

○こんなお店があります。

本牧三溪園通り商店街



店のしゅるい	食どう	さかなや	おかしや	パン・牛乳や	さかや	肉や	くだものや	やおや	とうふや	食りよう品や	米や	そうざいや	洋品店	薬屋	電気や	おもちや	日用品	花や	しゃしんや	ごふくや	自転車や	くつや	かさや	ふとんや	とこや・びょういん	クリーニングや	ビデオレンタル	不動さん	病院	合計
数	8	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	3	58

マイカル本牧



- 1番街－高感度生活プラザ
- 2番街－住空間コーディネーションギャラリー
- 3番街－ファイナンシャルコミュニティサービス
- 5番街－インターナショナルスクエア
- 6番街－カラーボラトリー
- 8番街－パーキングとファーストフード
- 10番街－パーキングとファーストフード
- 11番街－パーキングとドラッグストアなど

○みなさんの住んでいるまちや近くのまちには、どんなお店があるでしょう。



三溪園通り商店街



マイカル本牧



錦町マーケット



マリンハイツの食堂街



スーパー・マーケット



コンビニエンスストア



スーパー・マーケット

スーパー・マーケット



○商店街の人たちの工夫

①本牧三溪園通り商店街では、どんな行事を行っているでしょう。

1990年度

月	4	6	7	10	12	2
行事	桜祭りセール	あじさいセール	中元セール 緑日	福引 菊祭りセール	イベント 歳末・クリスマスセール	福引 歳末チラシセール イルミネーション点灯 梅祭りセール

商店街の季節毎の装飾（造花設置等）

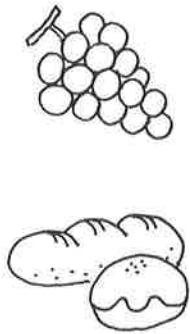
②マイカル本牧の行事には、こんなものがありました。

1989年度

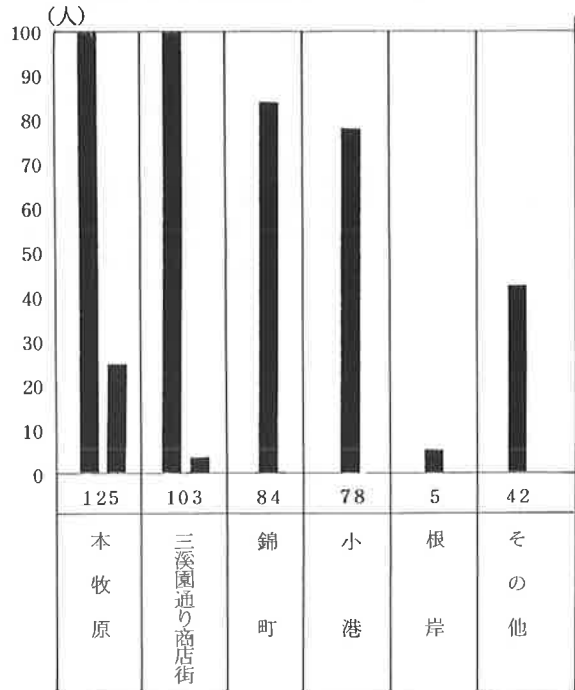
月	4~5	7	8	9	10	11	11~12	12	2	3	4
行事	オープニングイベント	ヨーロッパフェア	サンセット・ライブ ビア・ガーデン	芸術祭	本牧かぼちゃ祭	グリーンフェア	「はじめての」 クリスマス フラワーフェア	大晦日イベント 「ラ・フェト・ノエル」	パッション・バレンタイン	フラワー・マーケット	洋書フェア

(2) 買い物のようにす

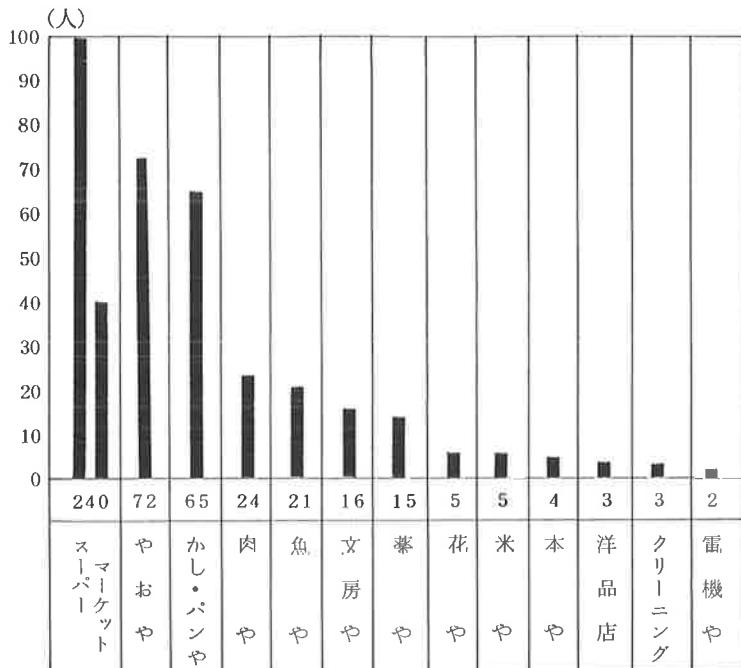
本牧南小学校の三年生
(100人)が一週間調べ
たものです。



(買い物に出かけるところ)



(買い物に出かける店)



5 まちの生産活動

海を中心に生活を営んできた本牧地区が、埋めたてを境に、どのように変わってきているのか、調べてみましょう。

(1) 漁業

昭和37年(1962年)根岸湾本牧沖の埋めたてにより、漁業の町としての本牧の歴史は終わりを告げました。中世このかた漁を日々の糧として営んできた生活は、補償を得ましたが、慣れない仕事に転業することになってしまいました。その数は、組合員数250人(実働にあらず)中184人、転業を必要としないもの66人でした。(昭53年4月現在組合別転業状況表より)

それでは、もう本牧では全く漁業は行なわれていないのでしょうか。



手こぎのあん船(あみ船) (忍足庄一氏蔵)



あぐり漁をしている機械船となったあん船(忍足庄一氏蔵)

○私たちは、“船だまり”（本牧漁港）をたずねてみましょう。

そこは、今だに沿岸漁業が続いている唯一の場所でもあります。案内してくださった忍足庄一さん（横浜市漁業協同組合副組合長理事）にいろいろ説明をしていただきながら、個人経営の約50隻の漁船と出荷風景を見ることができました。



水あげされた魚は、計りにかけられ、すぐ発泡スチロールに入れられ出荷します。その日、大タコ・スミイカ・大タチ・子タチなどを見ることができました。

出荷先は、中央市場本場へ送られていきます。働いている人は、2人で、それぞれが分担して仕事をしていました。



現在よくとれる魚は、スズキ・セイゴ・カレイ類・タチウオ・コノシロ、であることが分かりました。また、漁法としては、底びき網と巻網があり、底びき網の方がよくとれていることが分かりました。さらに全体の売り上げ高は、約2億3千万円にもものぼります。

本牧の漁業は、こうして絶えることなく続けられています。その漁業を何十年も守ってこられた忍足さんのお話を聞いてみました。

横浜市漁業協同組合
副組合長理事 忍足庄一さんのお話

十五才から漁師になり、今、六十四才。ずっと漁師をやってきた。だれにも真似できない人生だろう。

十八才で、子ども一人。五月二十九日、横浜大空襲で母親は乳がでなくなった。二十才で子ども二人。終戦後、何もない時代で食べていくのが大変だった。

家庭の事情で、二十五才の時、親方をやらなければならなくなって、雇っている人は、十二〜十三人。家族の世話をしながら漁師を続けた。

三人目の子どもができたとき、一つの漁業では食えないから、冬は、のり、あさり……と一日に二回も三回も商売をかえてやったよ。でも、そういうときはだめなもんさ。あせっているからね。どんなことをやってもうまくいかない。

三十七才のとき、埋めたての話があつてね。でも、

「今さら、人に使われるわけにはいかない、漁業が天職だ」

と思つてから、転業せず、ずっと漁師を続けてきた。

横浜市が栄えたのは、「埋たて」のおかげだろう。何でも、時の流れだからしかたないね。

うちでは、二人の息子を自分の後継者にしたよ。今、「番庄丸」「番忠丸」に乗っているよ。

○漁獲量は、どのくらいあるのでしょうか。

〔昭和52年度本牧漁業組合漁獲量〕

魚 類	漁獲高(t)
マイワシ	61
マアジ	0
サバ類	3
ブリ類	1
ヒラメ	6
カレイ類	24
サメ類	0
ニベ・グチ類	81
ホウボウ類	0
マダイ	0
クロダイ	1
ボラ類	92
スズキ	178
アナゴ	18
アイナメ	0
キス	1
コノシロ	352
その他の魚類	11
アカガイ	0
トリガイ	1
イカ	0
タコ	0
クルマエビ	2
ガザミ	0
その他のカニ類	0
シャコ	36
漁獲高合計	869 t

資料①

〔平成元年度本牧漁業組合漁獲量〕

魚 類	漁獲高(t)
マイワシ	1.21
コアジ	0.10
サバ類	0
ブリ類	0
ヒラメ	0.03
カレイ類	6.4
サメ類	0.12
ニベ・グチ類	0
ホウボウ類	0
マダイ	0.28
クロダイ	1.6
ボラ類	8.9
スズキ	2.2
アナゴ	8.8
アイナメ	4
キス	0.06
コノシロ	11
その他の魚類	90.93
アカガイ	0.08
トリガイ	0
イカ	0.9
タコ	3
クルマエビ	0.14
ガザミ	0
その他のカニ類	0.08
シャコ	0
漁獲高合計	約 217 t

資料②

魚の値だん表

魚名	単価	魚名	単価
マイワシ	2,500	マアジ	1,500
サバ類	1,200	ブリ類	1,700
ヒラメ	1,500	カレイ類	1,300
サメ類	1,000	ニベ・グチ類	1,000
ホウボウ類	2,000	マダイ	2,000
クロダイ	300	スズキ	600
ボラ類	300	アナゴ	5,000
スズキ	600	アイナメ	700
キス	600	コノシロ	800
コノシロ	5,000	その他の魚類	700
アカガイ	5,000	トリガイ	700
イカ	5,000	イカ	700
タコ	5,000	タコ	700
クルマエビ	5,000	クルマエビ	700
ガザミ	5,000	ガザミ	700
その他のカニ類	5,000	その他のカニ類	700
シャコ	5,000	シャコ	700



(2) 工場の様子

○工場は、どんな所に多いでしょう。

○工場を見学し、いろいろ調べてみましょう。

〈豊浦町〉

①日本農産工業

〈かもめ町〉

②大井製作所

③亜細亜産業

④三波工業

⑤第一金属工業

⑥神糧物産

⑦森野帆布船具工業所

⑧佐々木鉄工所

〈錦町〉

⑨三菱重工業

⑩横浜コイルセンター

⑪西山銅業

⑫田中厚板

⑬君津銅板加工

⑭ミナミ

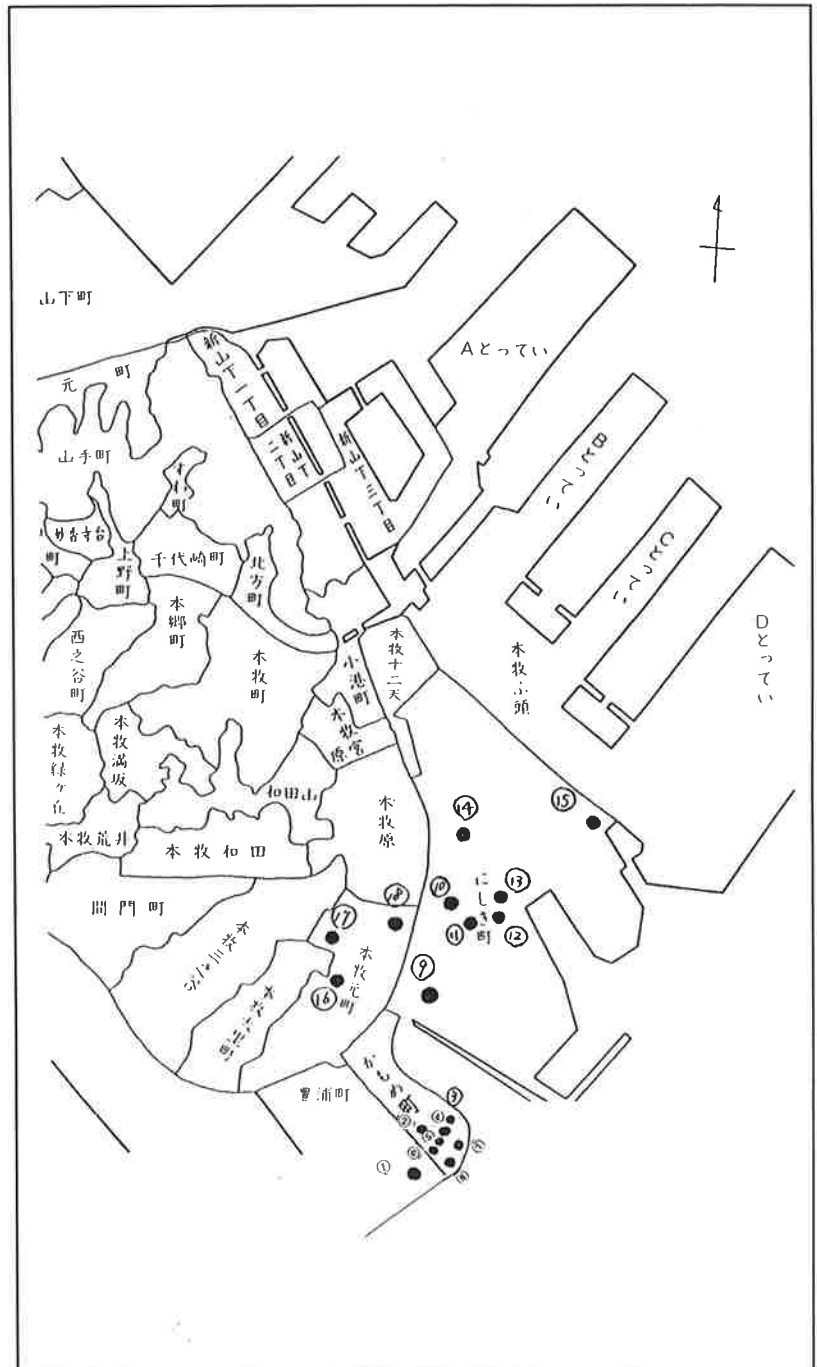
⑮第一コンクリート

〈本牧元町〉

⑯コビキ製作所

⑰鍛冶徳

⑱細川工作所





三菱重工業本牧工場について調べてみました。



朝、市バスを利用し、多くの通勤客がこの本牧に降ります。その大工場の一つが、三菱重工業本牧工場です。工場をのぞいてみました。

敷地面積	523,736 m ² 、建物面積 132,449 m ²
従業員	2,100名
年間売り上げ高	1,500億円
生産しているもの	ベイブリッジのような橋梁 ^{きょうりょう} 水資源確保するダムゲート 上水道用の鋼管 モノレールなどの新交通システム用の構造物
週労働時間	40時間 工作－8時～5時 企画－8時30分～5時30分 週休2日制
環境づくり	生活排水は、処理して洗面所へ利用 ごみ焼却施設、し尿処理施設 洗たく機・冷蔵庫など粗大ごみを細かくさいて 後処理を助ける破砕機
沿革	明治24年(1891) 有限会社横浜船渠設立 昭和10年(1935) 三菱重工業(株)に合併 昭和41年(1966) 本牧工場新設 昭和58年(1983) 本牧・金沢工場に移転 横浜工場閉鎖 同4月 横浜製作所と改称

※ 今、本牧の生産活動を支えている工業について、みなさんも調べてみましょう。

(3) 貿易

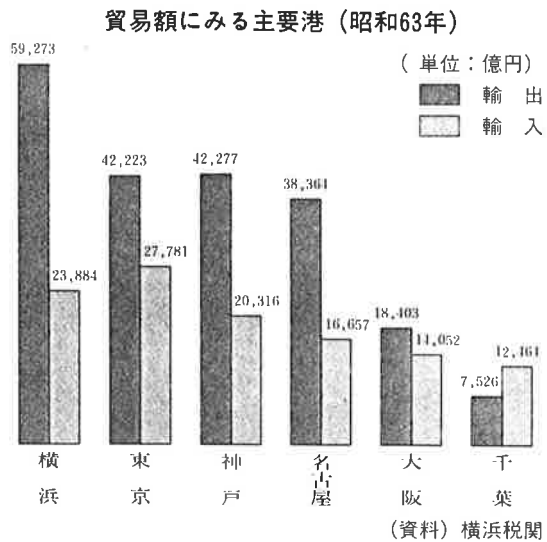
わたしたちの学区には、「国際都市横浜」の発展のために重要な役割をもつ横浜港本牧ふ頭があります。

この横浜港本牧ふ頭の役割はどのようなもので、わたしたちの生活とどう関わっているのか調べてみましょう。

①国際貿易のき地、横浜港

日本を代表する国際貿易港である横浜港は、昭和42年以来貿易額が連続して全国第一位です。また、横浜港に入港する外国船の数も、毎年一万一千せきをこえ、外国貿易貨物6047万トン（昭和63年実せき）、うち輸出は2568万トンと、取あつかい量も日本一となっています。

横浜港の貿易がなぜこれほどまでに発展してきたのでしょうか。考えてみましょう。



②横浜港の貿易

横浜港の輸出、輸入はどのように行われているのでしょうか。

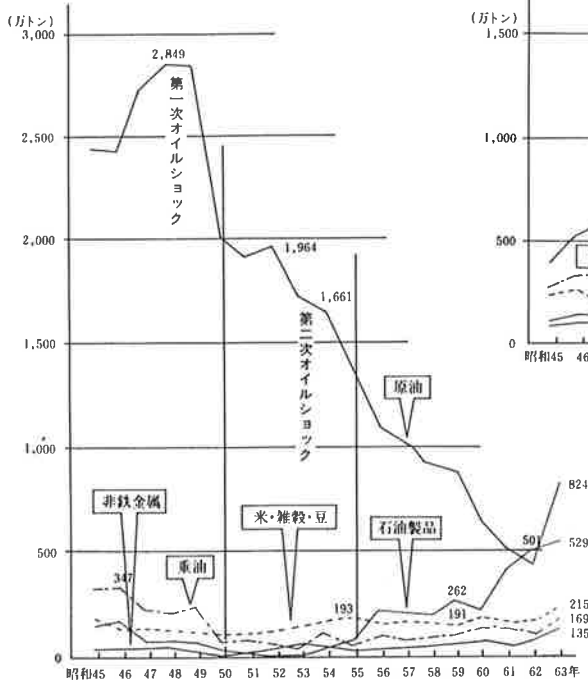
㊦横浜港の輸出

京浜工業地帯を後はい地とする横浜港は、常に日本経済を反映し、戦後から、二次にわたるオイルショック、産業構造の変化などで、輸出する物や取りあつかう量も大きくうつり変わってきました。

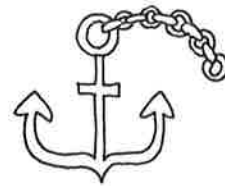
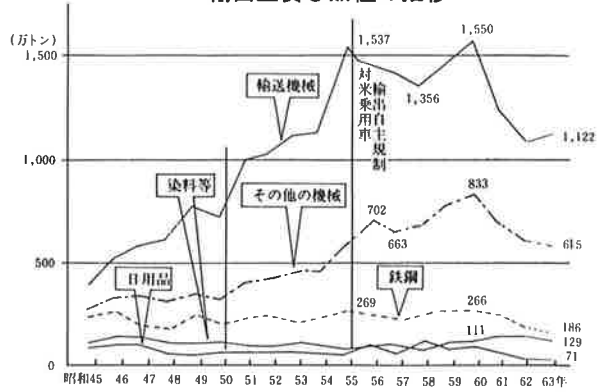
現在輸出の多い物は、自動車や電気製品、機械器機、鉄鉱などの金属機械工業製品で、輸出全体の75%をしめています。しかし、昭和63年以

降円高などのえいきょうを受け、やや横ばい状態となっています。

輸入主要5品種の推移



輸出主要5品種の推移



①横浜港の輸入

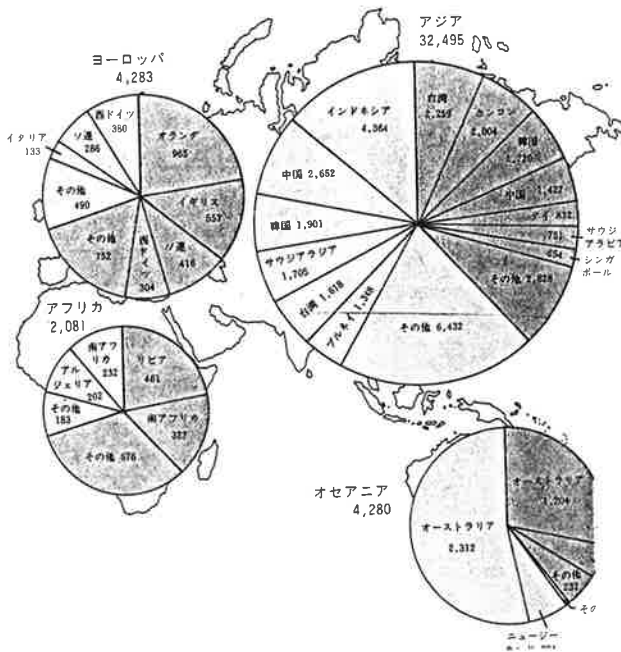
輸入は、原油、石油製品、重油など石油関係が全体の45%と中心になっています。

昭和63年から輸入は大はばにふえ始め、昭和49年以来14年ぶりに輸出と輸入がほぼバランスのとれた状態となってきました。

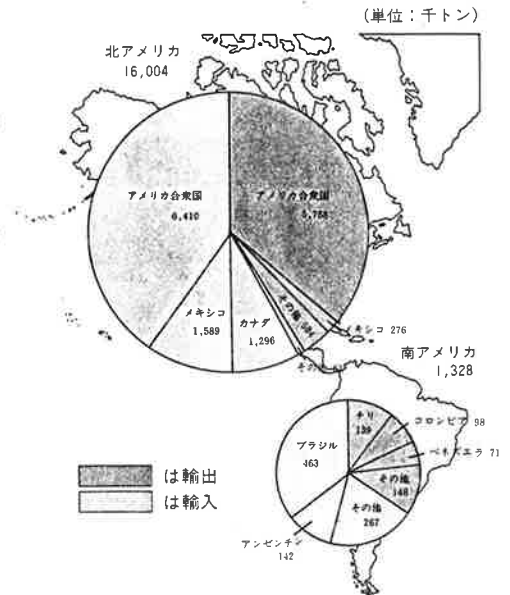
横浜港は、輸入は千葉、名古屋港に上位をゆずっていますが、輸出では、工業製品を主に貿易額、貨物量とも全国一位となっています。

㊦横浜港の主な貿易相手国

外貨貨物地域



国別取扱量



横浜港の主要な貿易相手国として、輸出入とも第一位にあげられるのはアメリカ合衆国ですが、62年以降減少が続き、反対に台湾・ホンコン・かん国・シンガポールといったアジアの国々との貿易量が増加してきています。



㊦ 横浜港の貿易の特色

横浜港は名実ともに日本一の貿易港であり、その取引相手国は150か国（地域）をこえています。進展いちじるしいコンテナ貨物の取引相手国も90か国（地域）をこえ、コンテナの取あつかい量は63年には2000万トンに達するなど、毎年増加しています。

こうした貿易の発展が、わが国の食料生産や工業生産、さらに国民生活向上のためにどのように役立っているか、考えてみましょう。



コンテナのならぶ岩べき



ガントリークレーンでコンテナを
コンテナ船に積み上げている所

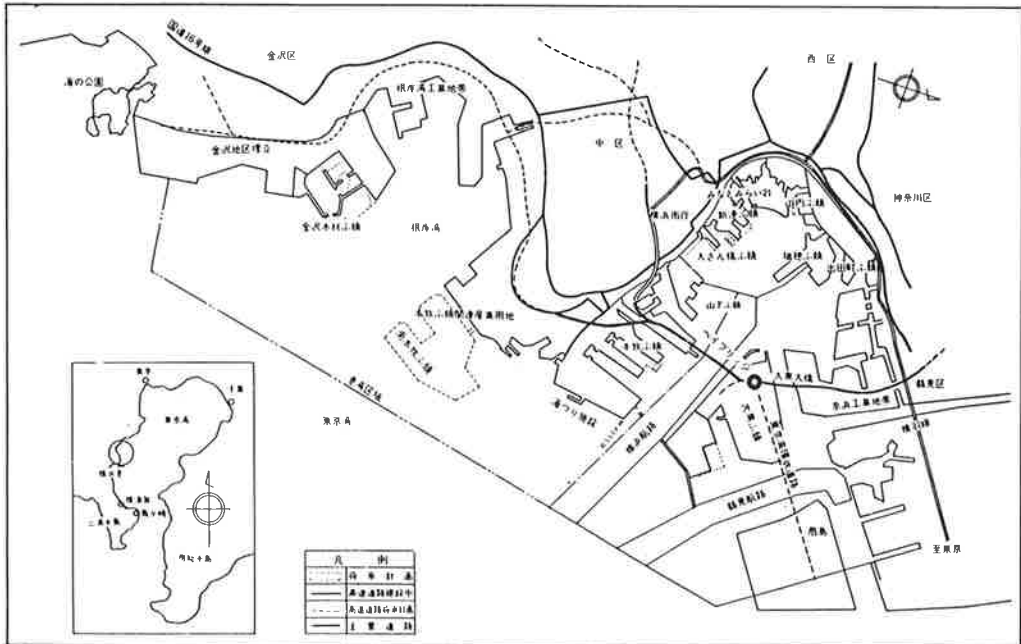
③横浜港のし設・設備

130年の歴史をもつ横浜港は、開港の息ぶきを今日に伝える赤レンガ倉庫など、歴史的な土木とともに、コンテナ荷役を中心とするターミナルなど近代的な多くの港湾し設を要しています。

戦後の混らんからぬけ出した日本経ざいは、重化学工業を中心に急速に復活する中で、貿易も輸出を中心にじょじょに回復してきました。こうした中で昭和30年に入ると、まんせいの船混みが出てきて、横浜港でも港湾し設の整備や大規模なふ頭建設が進められていきました。現在横浜港で使用している主な公共ふ頭は8ふ頭です。中でも、昭和38年から45年に整備された本牧ふ頭は、横浜港最大のコンテナふ頭として重要な役割を担っています。

主要港湾し設としては、岩べき95バース、公共上屋（うわや）53とう、荷さばき地102か所、物揚場41か所、ほかにも小型油そう船係りゅうさん

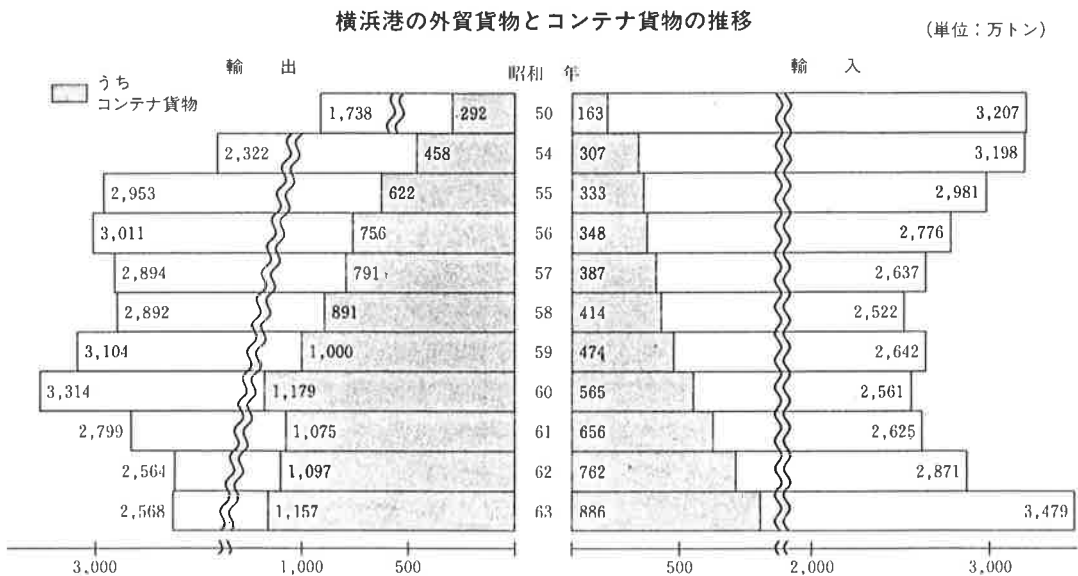
横浜港の現在と主な将来計画



橋、はい油しよ理場などが整備されています。

横浜港のし設の特徴としては、はい後に大規模な京浜、根岸湾などの工業地帯などかかえているため、民間き業の私設バースが多数おかれていることです。

④横浜港のコンテナ



昭和43年以来始められたコンテナ貨物による貿易が急速に進み、昭和50年から一かんして増加し、横浜港は今では世界有数のコンテナ貨物取あつかい港となっています。なぜコンテナ貨物の取あつかい量がこれほど増えてきたのでしょうか。その理由は、

- 一定の形状で本船甲板の上に積み重ねることができること。
- 短時間で大量の荷役および貨物輸送ができるようになったこと。
- 貨物をコンテナにつめたまま屋外に保管できること。

○おおいのない車での陸上輸送などができるため、輸送全体が大はばに
合理化され、これまで海側部分で積みあげ、仕分けされていた貨物が、
内陸の地点まで拡大されたこと。

などがあげられます。

コンテナ専用のし設として、本牧ふ頭にはAとつ堤 (A₅~A₈)、Dとつ堤
(D₁~D₅)、多目的バース (C₆~C₉) の公共コンテナバース、ふ頭公社コン
テナバースなどがあり、ここで横浜港コンテナ貨物の80%以上を取あつか
っています。

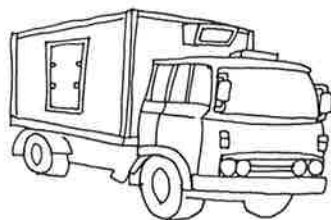
コンテナの種類には、

- ドライ・コンテナ
- リーファー・コンテナ
- 通風コンテナ
- オープントップ・コンテナ
- フラットラック・コンテナ
- バルク・コンテナ
- 特しゅコンテナ

など取あつかう貨物によりいろいろな物があります。



ストラルド・キャリアで
運ぶコンテナ

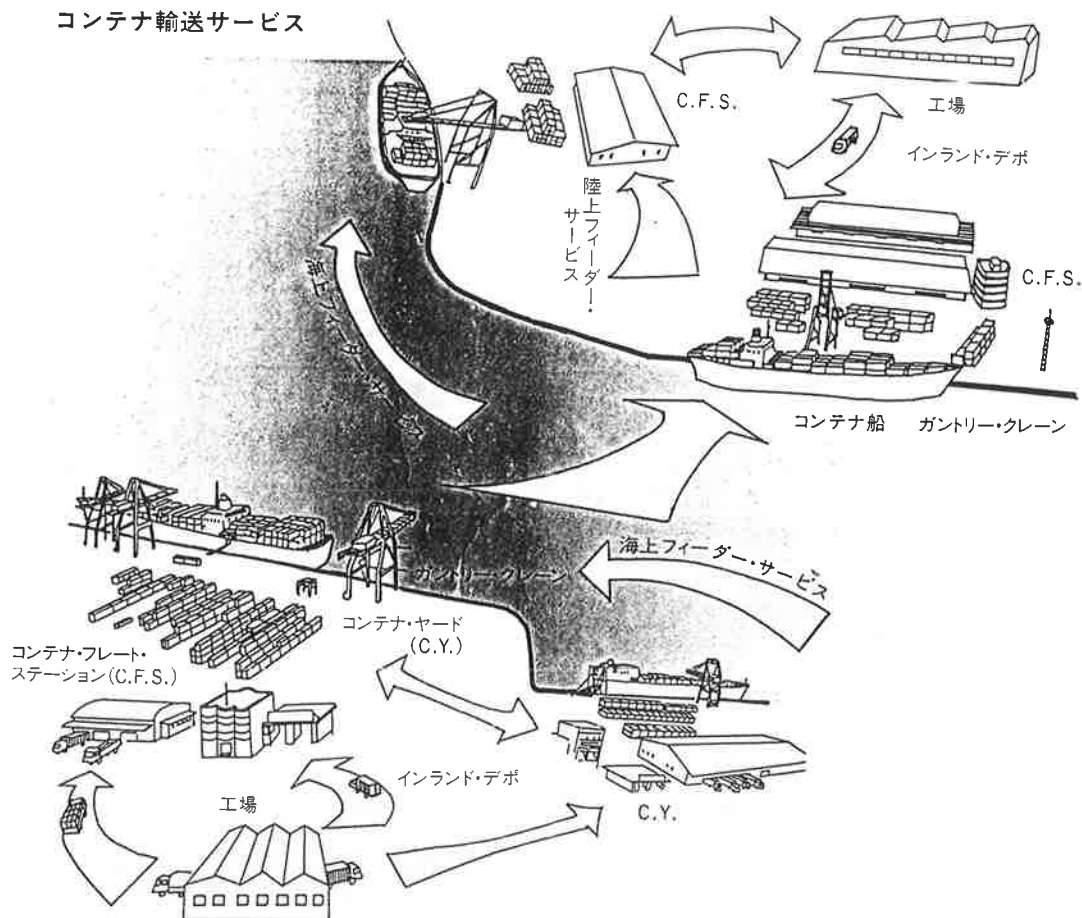


海につき出る本牧ふ頭の
とつ堤



コンテナ貨物には、コンテナ化しやすい、軽薄短小型（けいはくたんしょうがた）の工業製品が主流をめています。輸出で多いのが電気精密機械、自動車部品などの「その他の機械」「輸送機械」、輸入では衣料、家具調度品などの「日用品」、かんづめ、冷とう食品などの「その他食料工業品」「製材」といった品種が多くなっています。

コンテナ輸送サービス



こうしたコンテナ貨物は、輸出入ともに99%以上が定期こう路で輸送されています。

コンテナ船で輸送されたコンテナ貨物は、上図のように工場まで運ばれます。

コンテナ・ターミナル……C・F・S, C・Y, MY, オペレーションオフィスなどがあり、コンテナ貨物の荷役・運搬用具が整備され、海陸の接点となるコンテナせん用し設です。

コンテナ・フレート ……C・F・Sのことで、コンテナこに満たない
・ステーション 小口の貨物を受け取ってコンテナにつめたり、またコンテナから貨物を取り出したりする作業を行なう一種の上屋です。

コンテナ・ヤード ……C・Yのことで、コンテナを集積・保管・ぞう置し、かつ貨物の入った実入りのコンテナを受け取りまたは引きわたす場所です。

このようにして陸あげされたコンテナは、どのように工場へ運ばれていくのでしょうか。

⑤コンテナの内陸輸送

海上コンテナの内陸輸送には、道路輸送、鉄道輸送、水上輸送、その他これらを組み合わせた輸送などがあります。

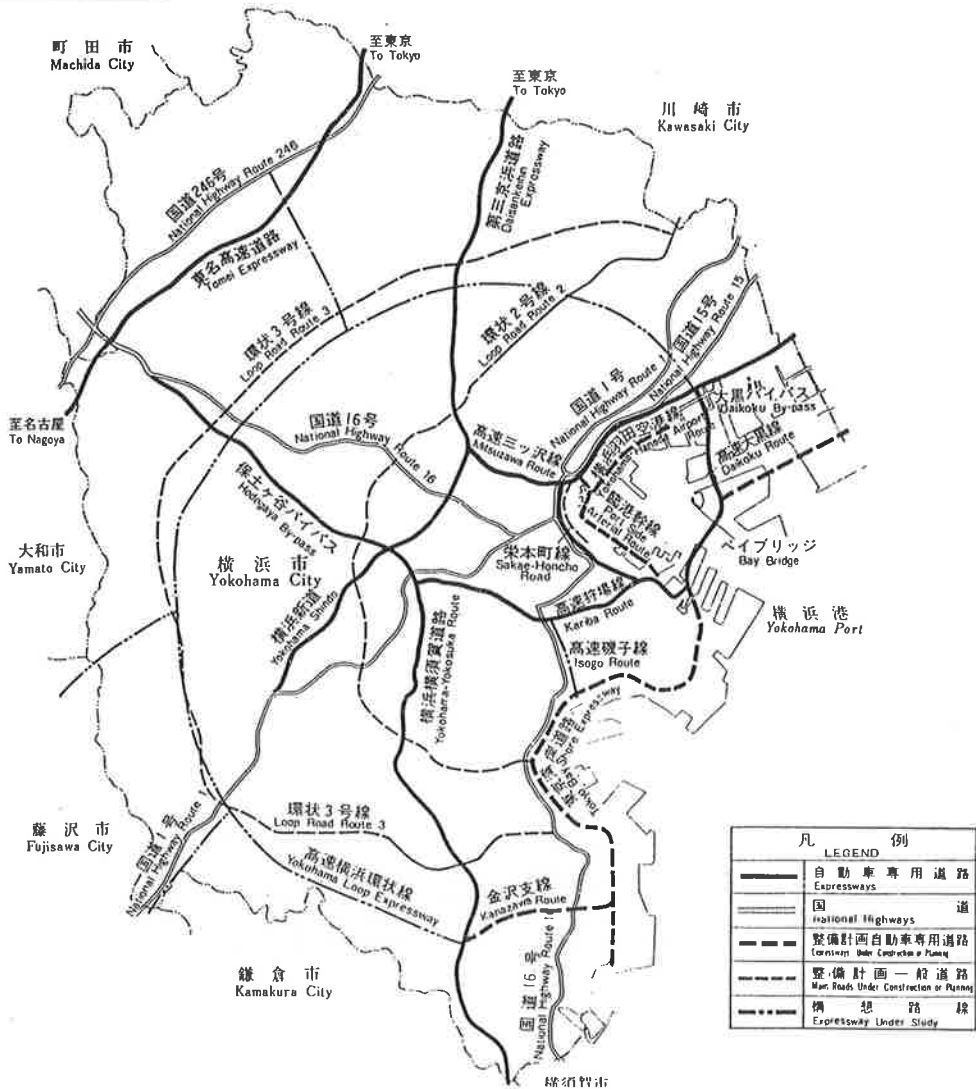
道路輸送では、(みなさんも産業道路を走る大きく長い車を見たことがあるでしょう)トレーラーが最も一ぱん的です。これはシャーシ(コ



ンテナを積さいする台車) とトレーラーヘッド (動力そう置) を組み合わせた物です。高速道路が増え、道路の整備・かく張がなされてきた現在、輸送方法の中でも、この道路輸送が非常に伸びてきています。

主要道路網

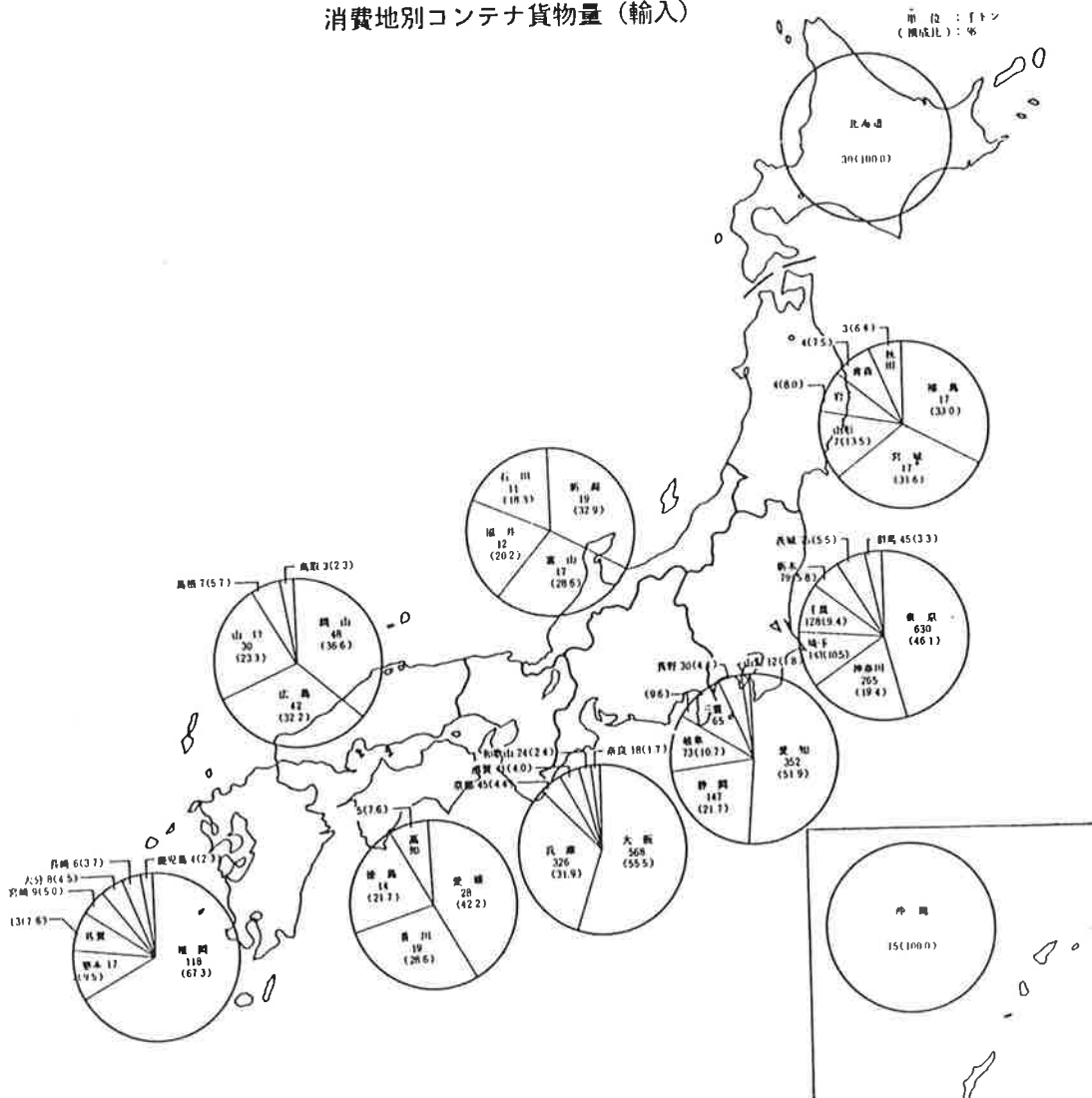
MAJOR IN-CITY TRAFFIC NETWORK



こうした内陸輸送により、横浜港本牧ふ頭で輸入した貨物も、全国各地の消費地まで運ばれ、わたしたちの生活を豊かにしています。日本一の貿易港である横浜港の果たす役割は、世界と日本を結び、流通を活性化させているのです。

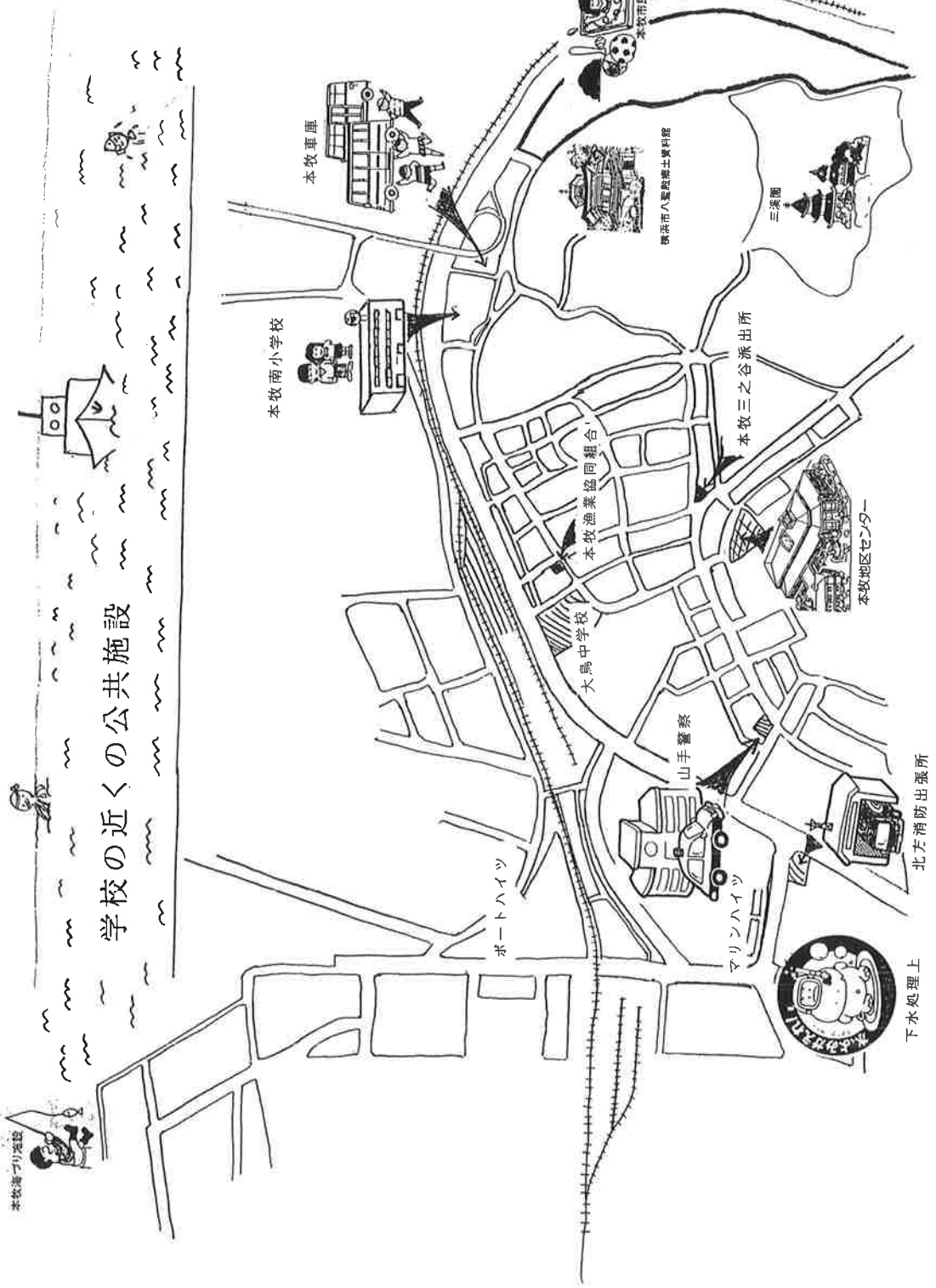
多様化している輸送貨物を「安全に、速く、大量に」運ばんするように日々努力している人たち、そうした人たちのなやみや工夫についても考え、話し合ってみましょう。

消費地別コンテナ貨物量（輸入）



本牧海釣り施設

学校の近くの公共施設



(1) 中部下水処理場

よごれた水や雨水を下水といいます。そのまま流してしまうと、海や川がよごれて魚や貝が住めなくなってしまう。

中部下水処理場を見学して、どのようにして下水をきれいにするのか、調べてみましょう。

① 下水道の役割

○ 浸水から町を守る

大雨が降っても雨水がたまらないように、ポンプで雨水をくみ上げて海や川へ流すので、道路などに水があふれる心配がありません。

○ 町をきれいにする

汚水をきれいにすることで、汚いドブ川がなくなり、いやな臭いもなくなります。カやハエの発生も防ぎます。

○ 水洗トイレが使える

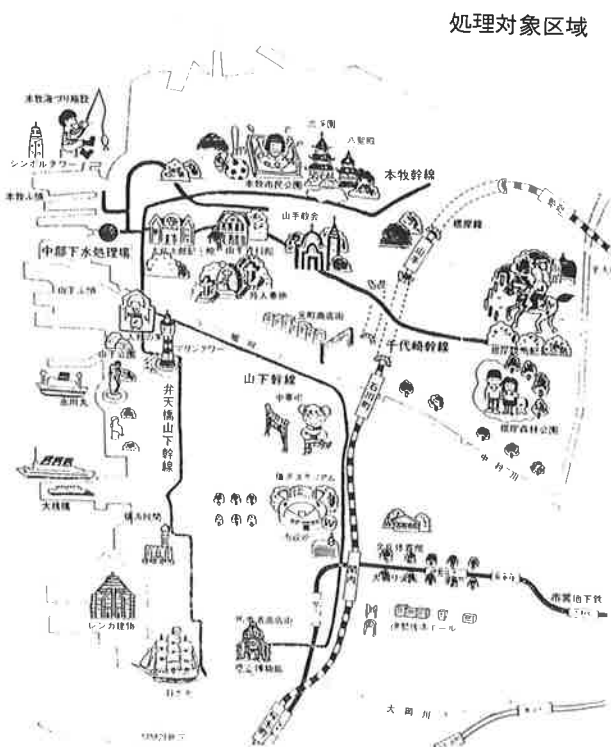
いやな臭いやハエの発生がなくなり、えい生的な生活ができます。

○ 海や川をきれいにする

よごれた水は下水処理場できれいにしてから流されるので、海や川がきれいになって、魚も住めるようになります。

② 中部下水処理場の処理対象区域

中部下水処理場の処理対象区域の特色をまとめてみましょう。



③よごれた水がきれいになるまで

ちんさ池



ポンプ室



そう作室



最初ちんでん池



エアレーションタンク



最終ちんでん池



めっきんこん和池



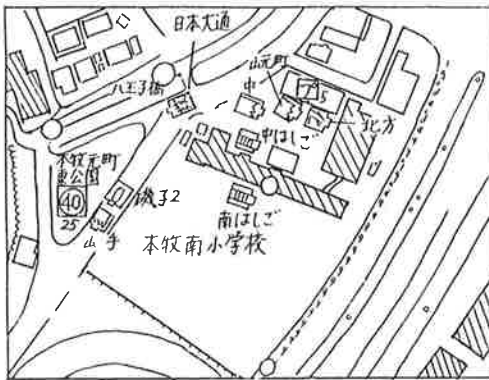
それぞれ、どのようなはたらきを
するところか調べてみましょう。



(2) 北方消防出張所

火事や地震にそなえて、わたしたちは避難訓練を行なっています。
 では、消防署では、どのような対策を立てて災害を防ごうとしている
 のでしょう。資料や見学を通して調べてみましょう。

○消防署では、学校が火事になったときのことを考え、すぐに活動できる
 ように計画を立てています。下の計画書をもとに、どのように消火
 活動が行われるのか考えてみましょう。



40 防火水槽 ○ 消火栓 □ 普通車 □ 救助工作車
 □ 化学車 □ はし車 □ 水槽車

区分	消防隊	車種	距離	時間	水利	特命任務および防ぎ方
第一出隊	北方	40	2 (11)	4 (分)	7	人命捜索・避難誘導
	小元町	40	3	6	7	人命捜索・避難誘導
	山手	40	3 (本)	6 (本)	40	25 延焼防止活動
	城子2	40	4 (本)	8 (本)	40	25 延焼防止活動
	日本大通	40	4 (南)	8 (南)	河川	人命捜索・避難誘導
	中1	40	6	12		指揮本部設置・情報収集
	中はじ	40	6	12		人命救助・消火活動
	前はじ	40	7	14		人命救助・消火活動
	中2	40	6	12		指揮本部の指示に従う
	中判町	40	6	12		〃
第二出隊	南2	40	7	14		〃
	大岡	40	7.5	15		〃
	杉田	40	7.5	15		〃
	境之谷	40	8	16		〃
現場設置場所	指揮本部	本牧南小学校校庭	指揮担当区分	警備課長 建物南側		
第三場	集結場所	港湾広場	第四場	集結場所	港湾広場	
水利	河川	水利	河川			

(平成2年度の計画)

○北方消防出張所を見学し、そのしくみやそこで働く人々の仕事について調べてみましょう。

- ・建物はどんなつくりでしょう。
- ・どんな種類の車があるでしょう。



- ^{れんらく}連絡に使われる設備には、^{せつび}どのようなものがあるでしょう。



- 火事が起きたとき、すぐ出動できるようにするためにどのような工夫をしているでしょう。



- 災害にそなえて、わたしたちは、ふだんからどのようなことに心がけていたらよいか、話し合っておきましょう。



- 地震や火事などで大きな被害を受けたときに多ぜいの人が安全に避難できるようにと定められた場所を^{こういきひなんばしょ}広域避難場所といいます。わたしたちの住んでいる所の避難場所について確認しておくことも大切なことの一つですね。

(3) 山手警察

◎警察は交通事故を防ぐためにいろいろなことをしています。



上の4まいの写真は何をしているのでしょうか考えてみましょう。

◎もし事故に合ったらつぎのようなことをしましょう。



○どんな小さな事故でもかならず警察に届けましょう。

○血がでていなくてもかならず病院へいきましょう。

※なぜ上のようなことをするのか話しあいましょう。

◎子どもの事故

(1) 学年・年齢別

	幼児	小学生						中学生			合計	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年		
2年	2	11	3	9	5	5	1	4	1	4	4	49
元年	10	3	8	10	2	4	2	3	12	1	4	59
増減数	-8	+8	-5	-1	+3	+1	-1	+1	-11	+3	±0	-10

(3) 事故発別

	発生件数		発生件数	
	歩行	自転車	自動車	その他
信号無視	0	1	0	0
飛び出し	8	4	0	0
通行区分	0	0	0	0
禁止場所侵入	0	2	0	0
幼児一人歩き	0	0	0	0
路上遊戯	1	0	0	0
その他	1	5	0	0
該当なし	6	13	0	0
自動車乗車中	6	0	0	0

(4) 時間帯別 (死者数)

	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~6	合計
	2年	1	2	1	7	17	14	5	2	0
元年	0	1	8	6	15	19	10	2	1	62
増減数	+1	+1	-7	+1	+2	-5	-5	±0	-1	-13

左の表は平成元年度と二年度の子どもの交通事故のようすです。

(山手署管内であった事故だけです。)

○事故に合ったのは何年生が一番多いでしょう。

○事故の原因は何が多いでしょう。

○何時ごろに多くおきているでしょう。

◎次の交通ひょうしきは何をあらわしているのでしょうか。下の㊸~㊻の中からえらびましょう。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



㊸自動車せんようどうろ

㊹おうだん歩道

㊺一時ていし

㊻歩行者おうだんきんし

㊼自転車通行止

㊽歩行者せんよう

㊾自転車および歩行者せんよう

㊿自転車おうだんたい

それぞれどんないみがあるのか調べてみましょう。

(4) ほんちくしゃこ
本牧車庫

車庫の中はこんな施設があります。



車庫の出入口



せいび工場



食堂



休けい室



ガソリンスタンド



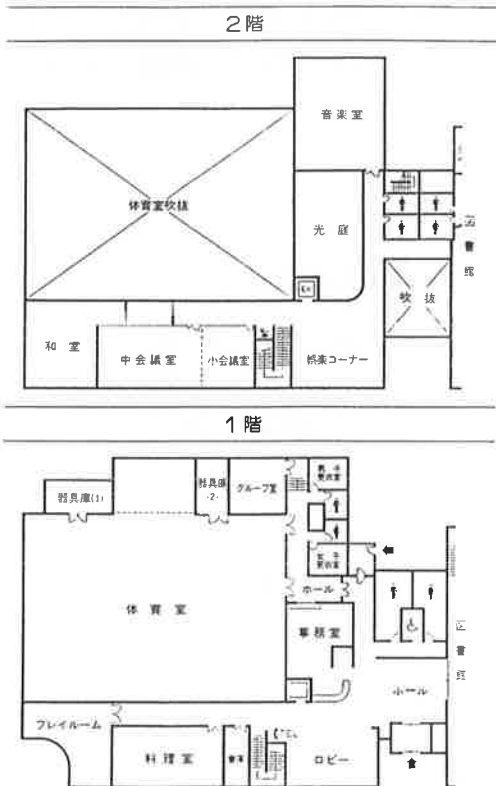
せんしゅうじょう
洗車場



本牧車庫のバスは全部で
98台あるそうです。

この他に、とこやさんや事務室じむしつなど
があります。

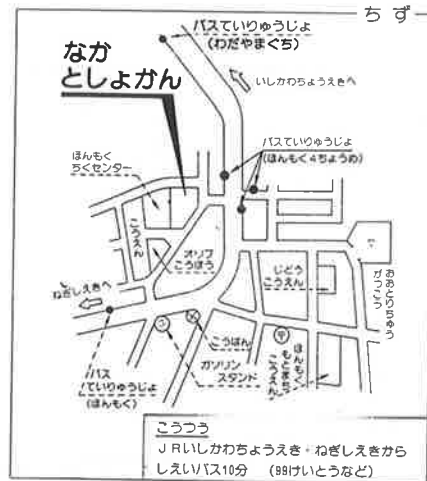
ほんもくちく
(5) 本牧地区センター・中図書館



地区センターにはどんな施設があるのでしょうか。またセンターのとなりにはどんな施設あるか調べてみましょう。

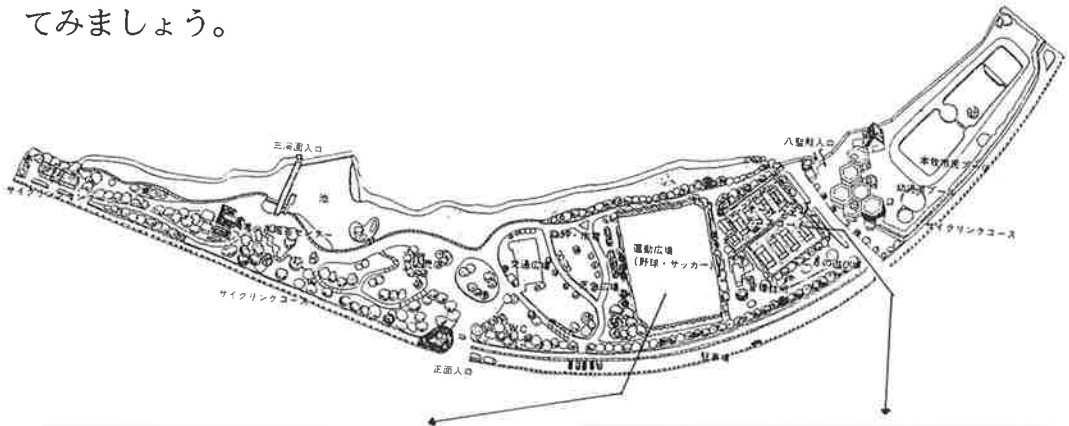
地区センターでは次のようなことができますが、どこでやるのか左の図を見て考えましょう。

- かんたんな話し合い
- バドミントン・たっきゅうなどの運動
- りょうりこうしゅうかい
- オセロゲームやしょうぎなど
- 会ぎや勉強
- 歌やダンス



(6) 本牧市民公園・本牧市民プール

うめ立てられた海の上に、公園ができました。どんなものがあるか調べてみましょう。



本牧市民公園は、昭和40年代前半の本牧先うめ立て事業にともなってたん生しました。

このあたりは、昔から本牧十二天として知られたところで、昭和30年ごろまでは、美しい海岸で海水よくもできました。うめ立てによってその自然が失われたので、その代わりにこの公園がつけられました。公園の中には・市民プール（一度に7,000人が泳げます。）

- ・運動場（野球やサッカーができます。ナイター照明もあります。）
- ・サイクリングコース（全長約1,300mです。）
- ・窯場（自分の手で焼物が作れます。）
- ・池（つりができます。広さは約18,000㎡）
- ・しばふ広場（広さは約15,000㎡）

などがあります。



(7) ^{さんけいえん}三溪園



原 三溪

三溪園の門を入ると、そこには、豊かな水をたたえた池に水鳥が遊び、四季折々の花がわたしたちをむかえてくれます。そして、手入れのゆきとどいた山林には、^{かんさい}関西や^{かまくら}鎌倉から集められた建造物が配置され、美しい庭園をさらにすばらしいものになっています。さて、この美しい庭園は、いつ、だれの手によって、どのような目的でつくられたのでしょうか。

三溪園は、明治39年、まだ完成前ではありましたが、市民に無料で公開されるようになりました。そして、この庭園をつくった人が、^{はら}原 ^{とみたらう}富太郎 (^{さんけい}三溪) です。

ここ、本牧の地は、海に向かって開け、気候が温暖で古くから景色の良い所でした。^{めいじ}明治44年、^{ろめんてんしゃ}路面電車が開通し、本牧が市の中心とつながることで、多くの人々がこの地に移り住むようになりました。

にぎわいのもう一つの理由として、当時、^{きいとぼうえきしょう}生糸貿易商だった三溪が、本牧の地を買い取り、よく考えたまちづくりを進めてきたことも忘れることはできないでしょう。三溪のまちづくりは、三溪園を中心としたものだったということが出来ます。彼は、わたしたちの住む本牧の地が整えられて初めて三溪園が完成すると考えていたからです。

草木の一本一本にまで心をこめてつくられたこの庭園から、わたしたちは三溪のまちづくりの心を感じ取ることができるでしょう。



(8) 八聖殿

聖徳太子・弘法大師・親鸞・日蓮・釈迦・孔子・ソクラテス・キリスト。

みなさんは、この中の何人の人の名前を知っていますか。ここにあげた人たちは、生きた時代、国、そして理想としたこともちがいますが、古くから聖人（徳のある理想的な人物）として語りつがれ、手本とされてきました。わたしたちの学区にある八聖殿は、この八聖人の像をおさめたところから、その名がつけられました。

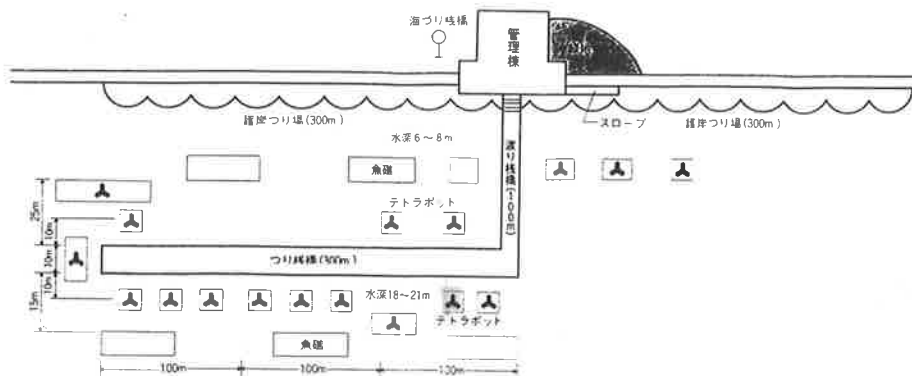
昭和8年。熊本県出身の政治家、安達謙蔵により、八聖殿は建てられました。謙蔵は、少年のころからの、仏教でもなく、神道でもなく、キリスト教でもない、人の心のなかにいつの時代にも消えない大切なもののあることを形に表し、心を見がく道場をつくりたいという願いから、ここを建てたのだと言われています。謙蔵の精神は、その後も受けつがれ、宗教や道徳についての講演など、精神修養の道場として使われてきました。

昭和12年。八聖殿は、横浜市に寄付され、後に、横浜市八聖殿郷土資料館と名前も改められて、広く市民に公開されるようになりました。現在では、市内の旧農村、漁村で使われていたさまざまな民具が展示の中心となってはいますが、昔の人たちの残してくれたものを次の世代の人たちに伝えていくということには、謙蔵の、いつの時代にも変わらない心を大切にするという精神が生かされているのではないのでしょうか。



(9) 本牧海づり公園

みなさんの家の近くに、このような施設があります。機会を見つけて利用してみましょう。




○利用期間と時間


4月～6月 午前6時～午後7時


7月～10月 午前6時～午後9時


11月～3月 午前7時～午後5時

○季節によってつれる魚

 春／アイナメ、カレイ、海タナゴ、カサゴ、メバル、イワシ

 夏／イワシ、サッパ、クロダイ、海タナゴ、フッコ、メバル

 秋／アジ、イワシ、海タナゴ、ボラ、クロダイ、サッパ、サヨリ、メバル

 冬／アイナメ、メバル、海タナゴ、カサゴ、コノシロ、カレイ



7 まちの伝統行事—お馬流し

お馬ながし (8月第1・第2日曜日)

本牧の^{そうちんじゅ}総鎮守である「本牧神社」の^{たいさい しんじ}大祭の神事が、この「お馬ながし」

の行事です。頭が馬、胴が亀の形をした、かやで作ったお馬です。

本牧はその昔、^{ちやうてい けんじやう ば}朝庭に献上馬を出していたところで、馬の^{えきびやう}疫病がはやった時、その^ま魔よけのためこの神事が考え出されたとされ、^{どう}胴の亀には、漁師の人たちの^{ほうりやう}豊漁のねがいがこめられているのです。

^{ぎしき}儀式はまず、かつて十二天の小山のふもと(現マリンハイツ前)に

あった本牧神社の祭だんに、六頭のお馬を^{ほうのう}奉納します。^{かんぬし のりと}神主の祝詞をうけた後、頭上にかかけられたお馬は、^{うじこ ぞうだい}氏子総代を先頭に行列して海岸におり

てから各船に手わたされま

す。^{おき}沖に出た祭礼船は、お馬

を静かに海の上に流すと、すぐに反対を向き後ろをふり返

らず、岸に向かって競争しながらこいでもどります。帰

てきた順に^{しゃでん}社殿におまいり



お馬さま



行 列

し、手じめで終わります。

現在では、大鳥小学校近くに移った本牧神社から、お馬を先頭にして旧本牧町内をまわったあと、本牧埠頭ふとうの新しい船だまりから二せきの発動機はつどうき船せんを用いてお馬ながしをしています。毎年盛大で、当日はたくさんせいたいの見物人でにぎわいます。

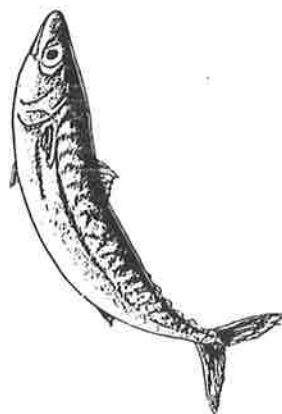
お馬が沖に流れていかず、本牧の浜にもどってくると、その年は不漁ふりょうになったり、伝染病でんせんびょうがはやると言われてきました。



お馬流し



みこし



●●●● あ と が き ●●●●

本牧南小学校が生れて、20年がたちました。

この20周年を記念して、PTAの方々や先生方が、みなさんの何か役に立つものを作ろうと話し合ってきたのがこの資料集です。

3、4、5年生の社会科を中心とした学習に役立つようにと、先生方は一生けん命、資料集めをしました。その際、地域の方々にも写真をかしていただいたり、お話を聞かせていただいたりして、ご協力いただきました。

この資料を何度も読んで、自分たちの住む町のことを今まで以上に知り、地域を大切にしようとする心がみなさんに芽ばえてくれたらと願っています。

さらに、地域の歴史についてもっと深く知ろうと努めたり、地域をこれからどう発展させていったらよいかを考えたりしようとする気持ちが育ってくれたら、もっとうれしく思います。

家族の方々たちと、そして近所の方々たちとも一緒に読んで下さい。読むことを通して、地域の方々とのふれあいの機会になればとも思います。

ボロボロになるまで、読んで、活用してください。

最後にこの資料集を作成するに際しまして、貴重な写真や資料をお貸しいただきました地域の方々や「本牧のあゆみ」(新本牧地区開発促進協議会作成)等を活用させていただきましたことに、深く感謝するとともに、深くお礼申し上げます。

又、PTAの皆様の強いバックアップも心より感謝しております。

平成3年6月19日

横浜市立本牧南小学校

20周年記念資料集編成委員一同

参 考 資 料 * * * * *

『本牧のあゆみ』1986年6月27日発行 新本牧地区開発促進協議会

『横浜市の埋立事業と漁業者転業対策年表』昭和53年4月
横浜市漁業問題研究会

『わたしたちの横浜』中区平成二年度版 横浜市教育委員会

『海があったころの本牧・根岸』昭和59年12月久良岐の会

『横浜製作所』三菱重工株式会社横浜製作所

『図説横浜の歴史』 横浜市市民局市民情報室広報センター

「ちんちん電車」 横浜市交通局

「横浜港便覧」 横浜市港湾局

「データで見る国際貿易港横浜港」 横浜市港湾局

※本牧漁業組合長 ^{おしたり} 忍足庄一氏にインタビュー

創立20周年記念誌

発行日 平成3年6月15日

発行者 横浜市立本牧南小学校
創立20周年記念実行委員会

編集者 創立20周年記念誌作成委員会

印刷所 有限会社 吉富印刷
横浜市港南区港南3-20-19
電話 842-4413

